

先生方とともに
高校生の今と未来をつなぐ

〈ビュー21〉

高校版

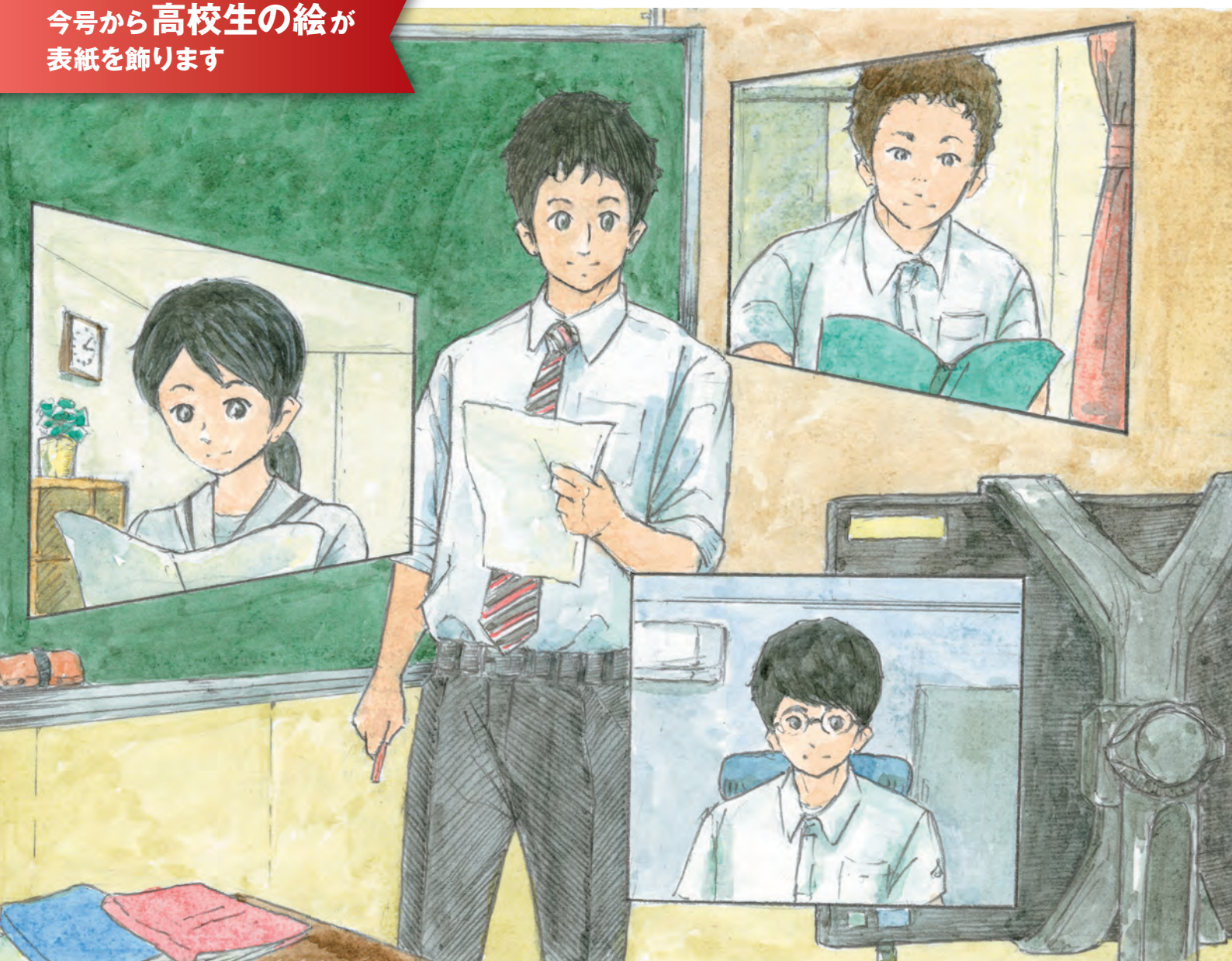
2020
Volume 2

6

月

VIEW21

今号から高校生の絵が
表紙を飾ります



特集

高3支援

——生徒の未来をともに創る——

新課程に向けて描く「学校教育デザイン」

群馬県立桐生高校

人気記事をPlayback／追跡！授業のその後
実践 アクティブ・ラーニング

日本史 福岡県立ありあけ新世高校 前川修一

指導変革の軌跡

宮城県気仙沼高校

新連載

NEXTリーダーがオンライン&オフラインで
集まり、語り合う

若手教師・教育創造 MTG

表紙制作者

福岡県立須恵高校
3年生
しらきつかさ
白木東幸さん



高校生との対話で描く

私たちの学校
これからの学校



聞き手

VIEW21 編集部
統括責任者
柏木 崇

白木さんが制作した別作品（下）には、校舎に装飾された校章が背景に。「普段目にはしている場所なのに、今回改めてとても印象的な場所だと感じ、絵にしたいと思いました」（白木さん）



熱中して描いたから気がついた、僕と学校にこれから必要なこと

柏木 今号の表紙を飾る素敵な絵を描いてくださって、ありがとうございました！ 今回は、何かの教科・科目のオンライン授業の様子を絵にしてくださいだったんですね。

白木 はい、書道のオンライン授業の様子を描きました。「芸術とは何か」について、先生の話聞き、みんなで考えているシーンです。芸術作品は、できあがった瞬間には値段は決まっていなくて、見る人の評価によって値段が決まっていきます。でも、それは芸術作品だけのことでなく、店で売られている商品も、デザインなどの芸術の要素によって価値が変わります。授業では、そういったことを学びました。自宅でリラックスした状態で授業に参加したからか、先生の問いかけにも、いつも以上に自由な発想で答えられました。

柏木 芸術作品の経済的な価値がどのように定まっていくのかをオンラインでみんなで考えるなんて、書道の授業にこれまで以上に興味が湧きました。

白木 書道の授業のシーンを描こうと思ったのは、表現活動についての僕の考え方そのものに影響を与えた授業だったからです。縄文土器の文様は、当時の人々が世界観を共有するために施したものだという考えがあるそうですが、自分の思いを他者に伝えたいという人間としての根源的な衝動が、あらゆる表現活動の源なのだと、今回絵にした書道の授業を通して考えるようになったんです。

柏木 白木さんの今のお話を聞いて、他者に思いを伝えたいという根源的な衝動は、AIが発達する社会でこそ、より価値を持つようになるかもしれないと思いました。

白木 僕もそう思います。そして、他者に思いを伝えたり、思いを実現するために行動したりする場としての役割が、これからの学校にはますます求められるのだと思います。ただ、絵に関して言えば、僕は知識をもっと身につけたいです。感性ももちろん大切だけど、色彩や筆圧などの知識がまだまだ不足していると、描き終わった時に実感しました。描いている時はただただ楽しんでいましたが……。

柏木 好きなことを思い切り楽しんだ後に、これからの自分についての気づきを得たというわけですね。

白木 気づいたことはもう1つあります。絵を描きながら、僕はいろいろな人に助けられてここまで来たのだということを、はっきりと自覚したんです。だから、卒業式の日まで、後悔のないように、しっかり勉強したいと思っています。

柏木 表現活動を通して自分自身を見つめるという、素敵な経験をされたんですね。素晴らしい絵、そして素晴らしいお話を、本当にありがとうございました！

白木さんが通う福岡県立須恵高校の取り組みを、今号の特集（P.16～19）で紹介しています。

2

特集

高3支援 ― 生徒の未来をともに創る ―

- 4 未来を拓くために今を捉える 学校現場へのアンケート結果から見る、高3支援の今後の課題
希望進路の実現に向かって力強く進めるよう、生徒に寄り添い、対話を重ねる
東京都・学校法人新渡戸文化学園 理事長 平岩国泰／福岡県立須恵高校 校長 荒木礼子／
教育研究家 行政・学校向けアドバイザー 妹尾昌俊
- 8 未来に向けて過去から学ぶ 震災による臨時休業を経験 2人の教師に尋ねる
- 8 1 福島県立磐城高校 3学年担任 小林俊一
「想定外な出来事」を通じた成長を信じて、生徒一人ひとりに寄り添う
- 10 2 熊本県立第二高校 進路指導主事 山崎 はじめ
生徒の力を借り、時に時間も委ねながら、生徒に必要な場をつくる
- 12 現場の実践から未来を見通す 今後に生きる！ 臨時休業下の2校の取り組み
- 12 先進事例1 東京都・私立新渡戸文化高校
臨時休業を生徒の自律性を育む機会と捉え、
生徒の声を尊重しながら、教師と生徒が学びを共創する
- 16 先進事例2 福岡県立須恵高校
オンライン授業のメリットを対面授業にも生かしながら、
不断の授業改善を目指す
- 20 生徒の・教師の・自校の・社会のNEXTを語り合うワークシート

今号の刊行にあたって

学校、教師に
寄せる思いを形に

◎最長3か月間にもわたる臨時休業、そして、全国高等学校総合体育大会や高校野球の春夏甲子園の中止など、高校3年生の3年間の活動を締めくくることが失われたことは、これまでにない出来事でした。そうした経験をする中で、多くの高校生が、友人はもちろん、学校や教師に寄せる自身の思いの大きさに気がついたのではないのでしょうか。それをぜひ1つの形にして、現場の先生方に届けるべく、今号から弊誌の表紙を高校生の絵で飾ってもらうことにしました。どんなことを考えながら制作したのか、作者の高校生のインタビュー記事も表紙裏に掲載します。ぜひ、高校生の思いと可能性の大きさを毎号感じていただければと思います。

『VIEW21』高校版
編集長 柏木崇

22

新課程に向けて描く「学校教育デザイン」

群馬県立桐生高校

教師間の対話を重ねるとともに、生徒・保護者の声も取り入れながら、
育成を目指す資質・能力を明確化

26

実践 アクティブ・ラーニング

日本史

福岡県立ありあけ新世高校 前川修一

26

人気記事を Playback 2016年6月号掲載

仲間と普遍的な問いに向き合う中で知の統合化を図り、
人間的な成長を実現する

30

追跡！ 授業のその後

より根源的な問いで歴史を「自分事」として捉えさせ、
自ら思考を深める力を育む

32

指導変革の軌跡

宮城県気仙沼高校

探究学習

地域の課題と向き合う探究学習を学校全体で推進し、
自ら考え行動する生徒を育成

36

改良！ 指導ツール ピフォーアフター

2年生 探究学習計画書

改良会議実施校 北海道旭川東高校

*本号の取材は、「新課程に向けて描く『学校教育デザイン』」を除き、オンライン会議ツールを活用して実施しました。

40

SDGsの視点で見る大学の学び

40

解説 目標1・3

42

大学の学び 目標1 貧困をなくそう

神戸大学 法学部 法律学科

深い議論を重ねる中で法学的思考を身につけ、国内外の多様な課題にアプローチ

44

大学の学び 目標3 すべての人に健康と福祉を

岡山大学 工学部 情報系学科

ヒューマンセントリック情報処理研究室

幅広い工学の知識と技能を生かし、健康や福祉に役立つ技術の開発を目指す

46

NEXT リーダーがオンライン&
オフラインで集まり、語り合う 若手教師・教育創造 MTG

新連載

第1回オンラインミーティング・リポート

意欲あふれる16人の若手が、

協働的に学びを深める！

48

― 疑問や課題を解決！ 実践につながる！ ― 新課程レポート

テーマ 資質・能力の育成に向けた、ペーパーテスト改善と多面的評価

実践事例 広島県立呉三津田高校

ペーパーテスト改善で、思考力を問い、学びを促す授業へ

56

Reader's VIEW

巻末

教師を育てた言葉たち

「誰もができる仕組みを作ることが仕事である。」
北海道札幌北陵高校 徳橋孝之

臨時休業中に 主体的に取り組んだこと

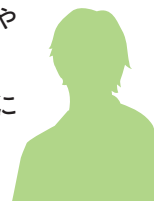
自分で学習面の弱点分野を
見つけて、重点的に
その分野に取り組みました。
臨時休業中も、主体的に
学習できたと思います。(宮崎県・公立)



普段は参加できない遠方での会合に、
オンラインで参加しました！
自身の作品制作へのヒントが
得られたので、思い切って
参加して良かったです。(青森県・公立)



長文を読むのが面倒で、ずっと
避けてきた新聞を読み始めました。
今、世界で起きていることや
問題に興味が湧いてきて、
自然と毎日、目を通すように
なりました。(福岡県・公立)

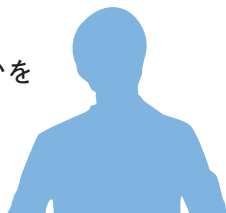


支援

をともに創る——

臨時休業中に生まれた 気づきや変化

なぜ、大学に行きたいのか、
なぜ、教師になりたいのか。
自分を見直し、
自分がどうしたいのかを
再確認できました。
(青森県・公立)



今後も、臨時休業の可能性があり、
受験生としては
不安が尽きません。でも、
今こそ進路実現に向けて
考える大切な時期だと
感じています。(静岡県・公立)



* VIEW21 編集部が、全国の高校1～3年生を対象に、臨時休業を経て、心境の変化や学校のあり方について考えたことなどをヒアリング。上記の声は、高3生の回答の中から抽出した。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月から多くの学校が臨時休業となった。そして、新学期に入ってから、体育祭や文化祭などの学校行事、部活動の全国大会などの中止や延期が相次いでいる。

2020年度の高3生は、「大学入学共通テスト」の実施を始めとする制度変更後の初めての大学入試に臨む世代であり、そうした環境変化の中での想定外の事態に、生徒たちが抱く不安は大きい。

それでも、希望進路の実現に向けて、生徒たちは前を向こうとしている。そんな高3生を、学校は、教師は、どのように支援していけばよいのか。学校の現状と実践事例から、その手がかりを探る。

高校生活最後の大会や行事が
どんどん中止になって、
正直、驚きました。気持ちを
切り替え、進路実現に向けて
頑張ります。(福岡県・公立)

努力の結果を証明する
機会がなくなって残念です。
その悔しさを次のステップへの
原動力にしたいです。
(大阪府・私立)

部活動の大会や学校行事が
中止になったことへの率直な思い

1分1秒の大切さが
身に染みて分かりました。
最後の大会は中止でしたが、
部活動に全力を尽くしてきて
よかったです。(長崎県・公立)

特集

高3

——生徒の未来

今後に生きる！
臨時休業下の2校の取り組み



福岡県立須恵高校



東京都・
私立新渡戸文化高校

P.16-19

P.12-15

震災による臨時休業を経験
2人の教師に尋ねる



熊本県立第二高校
進路指導主事
山崎一(はしめ)



福島県立磐城高校
3学年担任
小林俊一(しゅんいち)

P.10-11

P.8-9

学校現場へのアンケート結果から
見る、高3支援の今後の課題



教育研究家
行政・学校向け
アドバイザー
妹尾昌俊(あせの しょうすけ)



福岡県立須恵高校
校長
荒木礼子(あらか れいこ)



東京都・学校法人
新渡戸文化学園
理事長
平岩国泰(ひらいわ くにやす)

P.4-7



生徒の・教師の・自校の・社会の
NEXTを語り合うワークシート

今号の特集のテーマを校内の教師同士で
深めるツールとして、ご活用ください

P.20-21



このマークのある図版は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。
「HOME→教育情報→高校向け」でご覧ください。

未来を拓くために
今を捉える

学校現場へのアンケート結果から見る、高3支援の今後の課題

希望進路の実現に向かって力強く進めるよう、生徒に寄り添い、対話を重ねる

VIEW21編集部は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休業における各校の対応状況と、学校再開後の教育活動の見通しを調査するため、4月下旬と5月下旬の2回にわたり、全国の高校教師を対象としたオンラインアンケートを実施した。そのアンケート結果を踏まえ、臨時休業中も高3生への支援・指導を精力的に行った2校の理事長・校長が、全国の学校・教育委員会のアドバイザーを務める教育研究家の進行の下、学校再開後の高3生支援について語り合った。

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校指導への影響に関するアンケート 第1回・第2回」概要（図1～7出典）

【調査方法】 インターネット調査（ハイスクールオンラインが発信するメルマガにウェブアンケートのURLを記載。また、同サイトのトップページにもウェブアンケートのバナーを表示） 【調査期間】 第1回：2020年4月20日～5月1日 第2回：2020年5月18日～27日 【調査対象・回答数】 高校教師・第1回：543人、第2回：247人 【調査項目】 臨時休業中に生徒が取り組む課題、臨時休業時の授業、臨時休業時の学力把握、休業明けの定期考査の検討状況など

◎アンケート結果の詳しい内容は、下記のウェブサイトからご覧ください。

【ベネッセ教育総合研究所】

<https://berd.benesse.jp/special/VIEW21express/>

【ハイスクールオンライン】

https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/index.html

高3生の学びを止めないために、課題提供やオンライン授業を実施

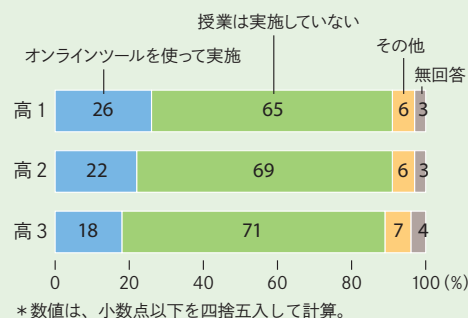
妹尾 まず、臨時休業中の学習指導についてお伺いします。お二人の高校では、どのような対応をされていましたか。

平岩 本校では、4月6日から生徒所有のデバイスを使ったオンライン授業を行いました。日頃から生徒との対話を重視した教育活動を進めている本校では、臨時休業に際しても、まずは生徒に学習についての考えを聞きました。高3生の声で圧倒的に多かったのが、「普通に授業を進めてほしい」という声です。オンライン会議ツールを利用して、教室での

授業と同じように黒板を使いながら教師が説明したり、生徒からの質問に答えたり、あるいは、生徒を複数のグループに分けて学び合いを行ったりしています。放課後には、オンライン自習室を設け、教師に質問したり、生徒同士で教え合ったりすることができるようになりました。

荒木 高3生は、大学入試や就職活動を控えているため、授業がないことに大きな不安を抱いていました。本校でも、課題の送付やオンライン授業は、高3生から行いました。オンライン授業はいち早く実施したいと考え、福岡県教育委員会に相談したところ、県としてオンライン会議ツールのアカウントの取得を進めて

図1 臨時休業中の授業



くれました。おかげで学校現場は安心して準備を進めることができ、4月20日にはオンライン授業をスタートし、その後、教師と生徒との双方



P.16～19で紹介

福岡県立須恵高校 校長 荒木礼子 あらき・れいこ
教職歴31年。同校に赴任して1年目。福岡県立城南高校教諭、同糸島高校教頭、同明善高校副校長などを経て、20年度から現職。



東京都・私立新渡戸文化高校の取り組みは、P.12～15で紹介

東京都・学校法人新渡戸文化学園 理事長 平岩国泰 ひらいわ・くにやす
会社員時代、長女の誕生をきっかけに放課後NPOアフタースクールの活動を開始。2011年から教育の活動に専念。17年、学校法人新渡戸文化学園理事、19年、同理事長に就任。文部科学省中央教育審議会専門委員。東京都渋谷区教育委員。



向型の授業としました。復習に活用できるよう、授業は録画して配信もし、その際、学習内容の確認テストや評価レポートを実施しました。

今後の授業計画のためにも、 学力の現状把握が重要

妹尾 アンケート結果を見ると、臨時休業中、オンライン授業の実施率は約2割で（図1）、多くの学校が3～4月に授業で扱う予定だった事

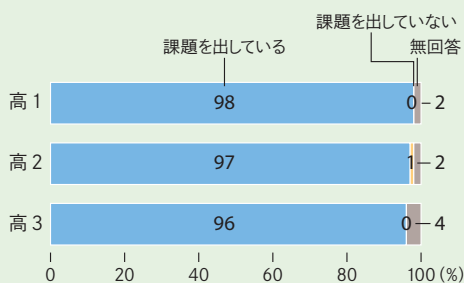
ファシリテーター



教育研究家 行政・学校向けアドバイザー 妹尾昌俊 せのお・まさとし

野村総合研究所を経て、2016年に独立。全国各地で学校・教育委員会向けの研修・講演などを手がける。学校業務改善アドバイザー（文部科学省、埼玉県、横浜市等より委嘱）、中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員等を歴任。近著に、『教師崩壊 先生の数が足りない、質も危ない』（PHP研究所）。

図2 臨時休業中に生徒が取り組む課題の有無



* 数値は、小数点以下を四捨五入して計算。

項は、課題を通じて学習させていた（図2・3）。その一方で、臨時休業明けに最も対応が必要と思われる課題として、約6割が「学習進度・授業進度のリカバリー」を挙げており（P.6図4）、先生方が生徒の学習状況に不安を抱いていることが分かりました。

荒木 体調やデータ通信量の上限などの理由で、生徒全員が毎回オンライン授業に参加できたわけではあり

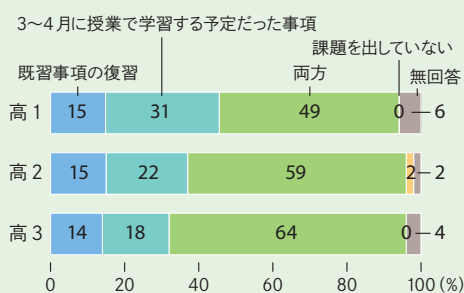
ません。平時でもそうですが、課題の提出率も100%ではありませんから、臨時休業中に学校が提供した学習に、生徒全員がすべて取り組んでいるとみなして、学校再開後の授

業を行うことは難しいでしょう。

平岩 臨時休業当初には、授業進度に関する不安があったかもしれませんが、4月の早い段階でオンライン授業を始めたことで、そうした声は小さくなっていました。ただ、オンライン授業は1日3～4コマ程度であり、1日6～7コマある平時と比較すると、学習のペースは生徒によつて差が出る可能性があります。

妹尾 生徒の学習状況が見えにくいといった状況を踏まえると、特に高3生については、今後の授業計画の見通しを立てるためにも、現状の学力把握が重要だと言えます。アンケート結果を見ても、臨時休業中

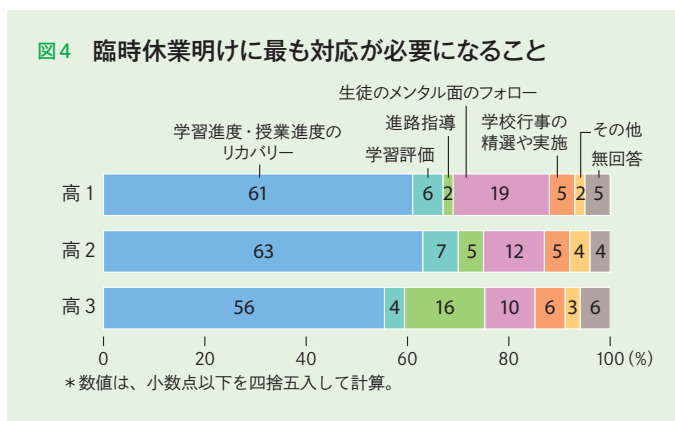
図3 臨時休業中に生徒が取り組む課題の内容



* 数値は、小数点以下を四捨五入して計算。

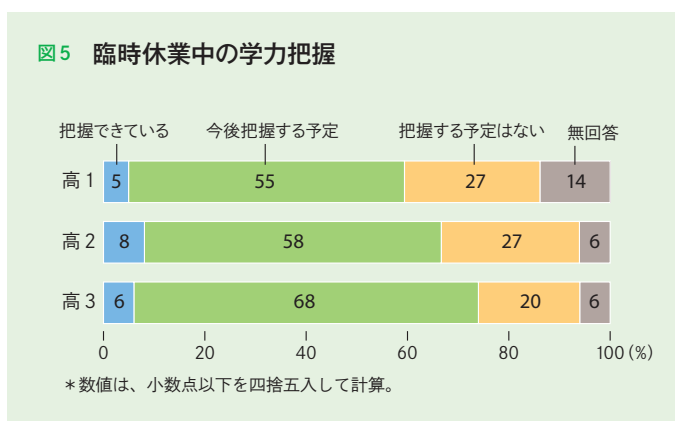
の学力把握について、高3学年では7割近くが「今後把握する予定」と回答し、その必要性を認識しています(図5)。高3生の1学期の評定は、大学入試で活用されるため、定期考査の時期を遅らせて実施することの回答が6割弱、部分的に廃止することを決定したとの回答は6割強に上りました(図6)。

平岩 1学期は、何かしらの方法で評価し、評定をつける必要があります。平時とは異なる形での評価になります。平時とは異なる形での評価になります。平時とは異なる形での評価になります。



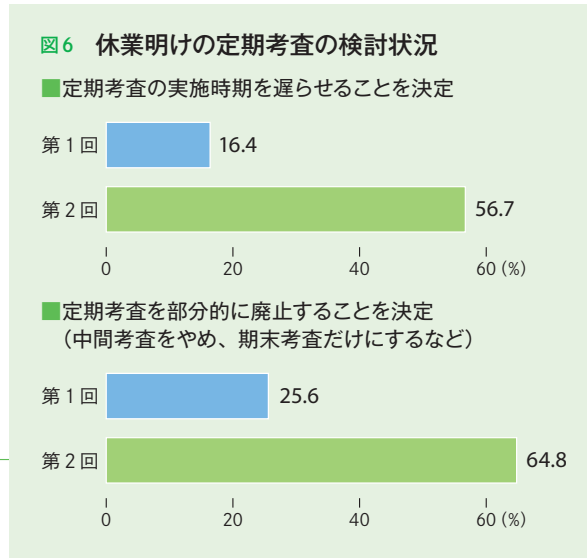
得を最大限得たいと考えています。**妹尾** 評価には、臨時休業中の家庭学習の状況も組み込まれるのでしょうか。アンケートでは、家庭学習を評価に組み込むと答えたのは、約4割にとどまりました(図7)。

荒木 本校では、生徒の学習への意識を高めるため、臨時休業中の課題を評価の対象とすることにしました。自律的学習者を育むためには、外発的動機づけで学習を促すのは本意ではありませんが、評価の対象とすることを生徒に事前伝えること



で、基礎・基本をしつかり定着させたいという思いもあります。**平岩** 本校では、1日の学習リズムができると考え、課題提出を行っていただきます。未提出が続く生徒には個別に声をかけ、生徒が自身の状況をメタ認知できるよう、支援しています。**妹尾** 課題の取り組み状況を単に評価するだけでなく、生徒になぜ、この課題を出すのか、課題を通じて何を身につけてほしいのかを伝えることが大事ですね。

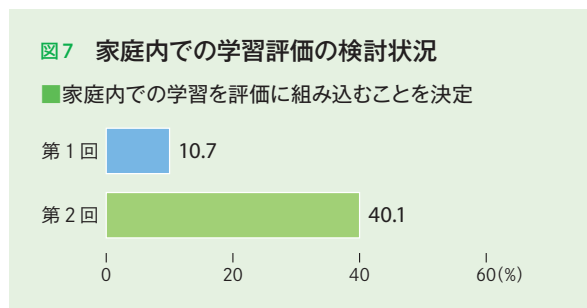
平岩 本校では、非認知能力の評価について検討中です。平時とは異なる経験をしたことで、非認知能力が



向上したと感じる生徒も多く、それをきちんと評価することで、今後、認知能力の伸びが期待できると考えています。評価方法は、前の自分と今の自分を比べてメタ認知することの意味があると考え、教師による評価だけでなく、生徒同士の相互評価と、アセスメントやポートフォリオを活用した評価などを検討しています。

希望進路を諦めさせないために、一人ひとりと向き合う

妹尾 高3生における臨時休業明けの課題には、進路指導も挙げられて



います(図4)。両校ではどのような対応をされていますか。

荒木 本校では、生徒が今回の想定外の事態で不安になり、自信を失って希望進路を諦めないよう、オンラインでのホームルームや面談を丁寧に行っていました。特に面談では、進学でも就職でも第1志望への思いを自分の言葉で表現させ、志望実現のために何が必要かを自分で考えられるよう支援しました。教師も弱気になりがちでしたが、画面越しでも生徒の笑顔に元気をもらいました。臨時休業中、断続的ではありますが、生徒と対話をしてきたことは、生徒と教師との一体感を生み、それが学校再開後の推進力になっています。

平岩 多くの高3生が、今回の臨時休業で大学入試に不利になったと否定的な思いを抱いているかもしれません。しかし、全国の高3生が皆、同じ状況にあり、大事な今は、そして、これからです。生徒が目標に向かって自分は何をすべきかを考えて、前に進めるよう、伴走して励ます役割が、教師には求められるのではないのでしょうか。

妹尾 部活動などの全国大会の中止が余儀なくされ、学校行事も実施し

づらい中、高3生は大学入試や就職活動に向けて、どのように気持ちを切り換えればよいのかも課題です。

荒木 学校は、他者とともに学ぶ場であり、学校行事や部活動などは非認知能力を磨く重要な機会です。それを失わず、高3生が次のステージに進むための支援が必要と考え、本校では、中止となった文化祭の代わりに、文化祭が3年間の成果を発表するウェブ文化祭を企画中です。運動部でも、全国大会や県大会が中止となってしまうため、他校との交流試合を考えています。

平岩 気持ちを切り換えるためにも、高3生がマインドセットをできる時間を設けるのはどうでしょうか。学校再開後、すぐに学習を進めることはもちろん重要ですが、学校は何のためにあるのか、自分にとってどんな場所なのかを、生徒と教師が語り合い、学校や授業の意義を再認識することができれば、その後の学習にもよい影響があると考えます。

妹尾 今回の事態は、たくさんの変残念なことをもたらしましたが、社会の様々な事象のつながりが見え、資質・能力を育む学びの機会も創出しました。新型コロナウイルス

の感染拡大の防止策においては統計学の重要性を目的の当たりにし、歴史からは感染症対策の様々な教訓を得ました。自粛期間中は、自分が社会の一員としてどう行動すべきか、社会とどうかわるべきかを、生徒も深く考えたことでしょう。そうして広がった関心や深まった問題意識を教科横断的な視点でさらに広めたり、深められたりするような働きかけが、高3生が進路を考える上でも大切になると思います。

焦らず、ぶれずに 生徒に寄り添う

妹尾 6月から多くの学校で登校が再開しました。今後の教育活動についてどのようにお考えでしょうか。

平岩 今後予測されている第2波、第3波への備えとして、オンライン学習の環境を整え、自校の状況に応じたオンラインツールの活用法の検討が必要だと思っています。本校では、オンライン授業と対面授業のそれぞれのよさを整理し、授業再開後もオンライン授業を継続する予定です。また、高3生は、先が見えずにプレッシャーを感じているかもしれませ

ん。だからこそ、焦らずに、今できることに集中することが大切です。自分だけが不安ではないと感じられるよう、教師や学校が生徒に寄り添う存在でありたいと思います。

荒木 その通りだと思います。どんな事態になっても、私たちは生徒一人ひとりと向き合い、支援する、それにぶれはありません。様々な制約があっても、高3生の進路実現はもちろん、生徒のために何ができるのかを教師一人ひとりが考え、提案し、話し合い、「チーム学校」としてよりよい支援をしていきます。そして、学校がどんな支援を考えているのかを生徒や保護者に伝え、安心してもらうことも重要です。校長通信を配信し、学校の様子を伝えることに努めています。誰もが不安であるからこそ、教師がどしどしりと構えて、ぶれずに生徒と向き合えるよう、校長としての支援をしていきます。

高3支援の課題整理

- ✓ 学力の現状把握
- ✓ 学習評価のあり方の検討
- ✓ 進路実現に向けたマインドセット
- ✓ 学校としての支援方針の策定と発信

未来に向けて
過去から学ぶ

震災による臨時休業を経験

2人の教師に尋ねる

2011年3月に発生した東日本大震災、16年4月に発生した熊本地震では、多くの高校が休業を余儀なくされた。当時、3学年団として3年生への支援に尽力した2人の教師に、休業明けの3年生の指導の留意点について、当時の経験も交えながら話を聞いた。

1 「想定外な出来事」を通じた成長を信じて、生徒一人ひとりに寄り添う

福島県立磐城高校 いわき 3学年担任 小林俊一 しゅんいち

生徒の声に耳を傾け

「新しい日常」をともにつくる

本校が臨時休業に入ったのは4月21日、今年度からクラス担任として3学年団に入った私と、新学年になった生徒がお互いを知ろうとしていた矢先のことです。



福島県立磐城高校
3学年担任
小林俊一
こばやし・しゅんいち

教職歴27年。同校に赴任して2年目。2011年度は磐城校が丘高校で3学年担任を務める。以後、同校、ふたば未来学園高校で進路指導主事を歴任。地理歴史・公民科。

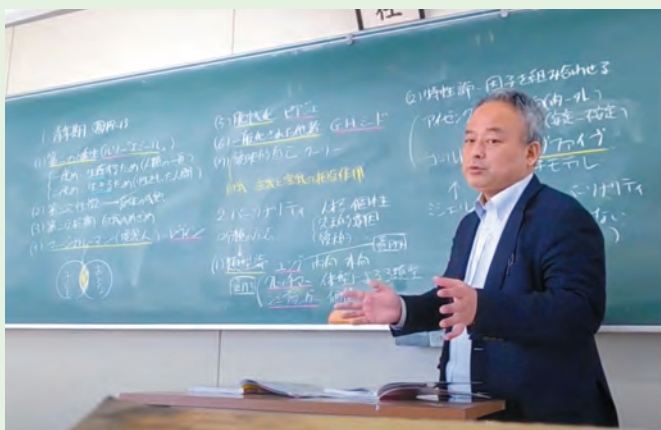
した。今年度の3学年は、「大学入学共通テスト」が初めて実施されるなど、手探りの部分の多い学年です。総合型選抜に向けて、生徒の強みや志望を丁寧に確認していくことも含めて、進路指導や学習指導では、例年の3年生以上に生徒一人ひとりに寄り添っていくと考えました。しかし、4月、5月はそうしたことがほとんどできませんでした。

多くの3年生は、淡々としていました。「仕方ない」と自分に言い聞かせているようにも見えました。東日本大震災の時も、家庭が大きな被害を受けた生徒は、教室では努めて明るく振る舞っていました。

た。しかし、出願前の面談時に、震災で受けた心の傷を話す生徒が何人もいました。今回、生徒は「大変なのはみんな同じ」と、気丈に悲しみを飲み込もうとしているように、私には思えます。

今、私にできることは、「自分が生徒の立場だったら……」と、彼らの内面をひたむきに想像することだけです。学校が再開し、一見、臨時休業前の状態に戻ったように見えたとしても、実際はそうではありません。だからこそ、私たちは、生徒の今をひたむきに探っていくことが必要だと思います。部活動の大会や学校行事の中止・延期が余儀なくされる中、受験生への切り替えのための機会として機能してきた場を、今後、学校、学年としてどうつくっていくのか、教師だけでなく、生徒の声も聞きながら、新しい日常をともに考えていきたいと思っています。

写真 授業動画を製作



小林先生が製作した倫理の授業動画。「要点を絞り込んだら50分の授業が10分程度の動画に収まりました。しかし、これまでの授業には無駄な時間が多かったのかという、そうではないと思います。生徒たちは、私の板書のタイミングや余談の時間に考えを整理していたのだと思います。動画作成は、今後の授業における余白のあり方を、私自身が考える機会になりました」(小林先生)

夢を諦めさせないために
問われる進路指導の力

生徒は新しい日常を生きていますが、第1志望合格というミッションに変わりはありません。大学で何を学びたいのか、合格のために今何をすればよいのか、これまで深めてきたことを今後も深めていくことが、生徒には求められます。

今回の臨時休業中、本校の教師は学年団や教科で協力し、授業動画や課題の配信などを計画的に行いましたが(写真)、

その内容が生徒に定着したかどうかは、今後検証していくことになります。オンラインツールの活用状況などは今とは全く異なりますが、震災後の3年次6月の模擬試験の結果は、震災発生前の2年次2月の結果と比べて、想像以上によくなかったことをはつきりと覚えています。

ただ、私は当時、生徒に「2年生までの履修内容を定着させることができれば合格に大きく近づく。決して焦ることはない」と、何度も話しました。生徒の状況を客観的に把握した上で、根拠を持って前向きに見通しを語ることが今回も必要でしょう。目標に向けてすべきことを的確に捉えて、生活のリズムを再構築させることが求められているのは、震災時も今も同じだと思います。

また、家庭の経済状況が変わり、志望校の変更を迫られる生徒が出てくること给予想されます。生徒や保護者に、早い段階で率直に悩みや不安を吐露してもらえるよう、3学年団の教師は、部活動の顧問などとも連携して、多角的に生徒、保護者と信頼関係を構築しておくことが求められます。そして、実際に志望校を変えざるを得ない生徒が現れた時に、その生徒が置かれている状況の中で、どうすれば夢を諦めなくて済む進路選択ができるか、ともに考えることが必要です。

震災を契機に、これからの社会のあり方、個人の生き方を深く問い始めた生徒、復興への使命感を抱いて地域課題に目を向けた生徒がたくさんいました。では、今回の経験を通して、生徒はどんな視点を獲得し、それを自分の人生にどう生かしていくのでしょうか。きっと生徒は、世界・日本のこれからを自分事として主体的に考える機会にしてくれると思います。生徒たちの今後の成長を、私はとても期待しています。

3学年の担任として、生徒の今はもちろん大切です。しかし、今だけに目を向けるのではなく、10年後、20年後の成長を信じ、未来に生かされる力を育むようなかわり方を、これからもしていきたいと思っています。

福島県立磐城高校

◎校是は「知性と責任」。2018年度から福島県教育委員会より「福島スーパー・イノベーション・ハイスクール(福島S I H)」に指定。新たな産業の創出・集積に資する研究者や経営者・起業家など、国内外で活躍する人材を育成する。

◎設立 1896(明治29)年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約280人

◎2020年度入試合格実績(現役のみ)

国公立大は、北海道大、東北大、筑波大、東京大、大阪などに130人が合格。私立大は、上智大、中央大、東京理科大、明治大、早稲田大、立命館大などに延べ460人が合格。

◎URL <https://iwaki-h.fcs.ed.jp/>

2人の教師に尋ねる

2 生徒の力を借り、時に時間も委ねながら、生徒に必要な場をつくる

熊本県立第二高校 進路指導主事

山崎 一 やまざき はじめ

生徒の状況をつぶさに見て、
必要な場をつくる

臨時休業期間中、本校でも多くの教師が登校日に、あるいはオンラインで、生徒に課題を配布したり、授業動画を配信したりしました。ただ課題を渡すのではなく、学習のモデルスケジュールも提示し、家庭学習のリズムがつくれるように支援もしました(図)。数学科では、単



熊本県立第二高校
進路指導主事
山崎 一
やまざき はじめ

教職歴17年。同校に赴任して10年目。2016年4月の熊本地震発生時は、同校で3学年担任を務めていた。数学科。

元の理解度を測る小テストを登校日に配布し、自宅で30分間取り組み、解答をスマートフォンなどで送信させるようにしました。

そうした取り組みによって、5月末まで、各教科の履修進度に大きな遅れは生じていません。しかし、臨時休業中の課題の提出状況や授業動画に対するアンケートの結果などから、生徒の学力差はやはり生じていると考えています。

2016年4月に発生した熊本地震の時、本校は5月中旬まで、約1か月間の休校を経験しました。生徒の家庭の被災の程度は様々でしたが、避難所生活で勉強どころではなく、学習に遅れが生じる生徒も少なからずいました。当時は、学校再開後、特に3年生には、週末に教室

を自習スペースとして開放することなどを通じて、生徒の学習を支えました。今回も、生徒の状況を見ながら、朝の始業前の時間や放課後を使った学び直しの場を設けることなどを、必要に応じて考えていきます。

生徒たちのアイデアを
吸い上げる力が求められる

全国高等学校総合体育大会などが中止となり、学校行事の多くも、例年通りに実施できるかどうか分らない中で、生徒たちは気丈に振る舞っています。でも、その胸の中には、割り切れないものがあるはずです。クラス担任や教科担任とのコミュニケーションが十分に取れていない状態で、もしも新型コロナウイルスの「第2波」が襲ってきたら、3年生の受験に向かうモチベーションはどうなるのかと心配しています。悩みや困り事を気軽に相談してもらえるような生徒との関係を、学年団の教師ができるだけ早く築くことが重要だと思います。

そして、「目標に向かってみんな頑張ろう!」といった、学校・学年としてのまとまりを感じる場をつくることも必要です。熊本地震の時には、地震の翌日に予定されていた全校生徒で行うバス遠

臨時休業期間中の特別時間割

[illegible]

家庭学習に円滑に取り組めるよう、5月の連休明けからの特別時間割を、全学年、全コース分、教務部が作成した。熊本県教育委員会が、県立学校における臨時休業の長期化を見据えた学習支援に関する基本方針を出した際、同校の特別時間割が実践例として紹介された。

* 学校資料をそのまま掲載。

*学校資料をそのまま掲載。

足を、1学期の終業式の日に実施しました。生徒が楽しみにしていた行事という理由だけでなく、「学年を超えて生徒が交流する重要な教育活動として欠かすことはできない」という教師らの声によって、時期をずらして実現したのです。今

年度は、「3密」を避けるためにバス遠足は実施できないかもしれませんが、その代わりに何ができるのか、先生方と話し合おうと考えています。そして、学校としてどんな場をつくれればよいかを考える際には、ぜひ、発想力豊かな生徒の力を借りたいと思っています。今後、「部活動でお世話になった先輩たちのために、何か思い出になるようなことをやりたい」などと、1・2年生が声を上げることがは十分考えられます。そうした時は、生徒のアイデアと意見を丁寧に吸い上げて、よりよい形で実現できるようにサポートしていくのが、私たち教師の役割になってくるはずです。

生徒を焦らせず、
時には生徒に時間を委ねる

震災を経験した生徒に向き合う際、私たちが気をつけたのは、危機感を煽らないことでした。本校は、熊本県内でも特に震災による被害が大きく、生徒たちは「自分たちは他校の生徒よりも学習が遅れている」と、心配していました。そこで、私たちは「大丈夫」「間に合う」と、生徒に何度も声をかけました。

今年度は、本校も夏季休業を短縮し、授業時数を確保することとしました。た

熊本県立第二高校

◎創立の精神は「自主積極・廉恥自尊・礼節協調」。
自由闊達な校風の中で次世代を担う人材を育成。
2003年度から4期継続してSSH（*）の指定
を受ける。普通科、理数科、美術科の3学科が協働・
融合し、科学的視点を取り入れた教育を展開する。

◎設立 1962 (昭和 37) 年

◎形態 全日制／普通科・理数科・美術科／共学

◎生徒数 1学年約400人

◎2020年度入試合格実績(現浪計)

国公立大は、筑波大、東京藝術大、東京大、広島大、九州大、熊本大などに236人が合格。私立大は、中央大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ441人が合格。

© URL <https://kumamoto-d2hs.ed.jp/>

だ、そうした中でも、生徒が自由に使える時間をつくってあげたいと思っています。部活動の仲間と過ごす時間、教師と進路について語り合う時間は、3年生だからこそ必要です。あくまでも一案ですが、教師に質問や相談をしたり、友人と話し合ったりするための、生徒が自由に使える時間を、あえて時間割の中に見える形で設け、生徒に時間を委ねるのもよいかもしれません。

「焦ることはない」と、生徒が安心してきるように、前例に縛られず、生徒の力も借りながら、本校としてのよりよい3年生支援のあり方を考えていきたいと思っています。

*文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール。

現場の実践から
未来を見通す

今後に生きる！

臨時休業下の2校の取り組み

臨時休業下でも、大学入試や就職活動を控えた高3生の学びが止まらないよう、教師は生徒をどのように支えたのか。4月の早い段階からオンライン授業を始める様々な取り組みを試行してきた2つの高校に、実践のポイントや今後の展望について聞いた。

東京都・私立新渡戸文化高校

臨時休業を生徒の自律性を育む機会と捉え、生徒の声を尊重しながら、教師と生徒が学びを共創する

「自律的学習者の育成」を教育活動の目標の1つに掲げる東京都・私立新渡戸文化高校は、臨時休業下にあっても、その目標を達成するための教育活動を推進することを、改めて全教師で共有。取り組みの1つであるオンライン授業は、生徒に考えを聞くことを起点に構築していった。

すべての生徒が安心して 学べる環境を整える

東京都・私立新渡戸文化高校は、2019年度、これからの時代に求められる教育活動の再構築に向けた学校改革に着手した。最上位目標を「子どもたちの幸せにいかん貢献す

るか」とし、それを達成するための上位目標として、「自律的学習者の育成」を設定。社会との接続や学習意欲の向上をねらいとした、探究学習や教科横断のクロスカリキュラム（※1）などを教育活動の中心に据え、教師は、生徒との対話を通じた支援を貫いてきた。

そうした中、同校も、新型コロナウイルス感染症の予防のため、20年3月2日から臨時休業に入った。その数日後には、生徒の自宅に課題を送付するとともに、オンライン学習ツールを紹介し、自律的に学習するよう、生徒に呼びかけた。一方で、臨時休業は長引くと予測し、今後の



高橋純司
高1学年主任
教職歴26年。同校に赴任して1年目。社会科。



山藤旅間
統括校長補佐
さんとう・りよぶん
教職歴16年。同校に赴任して2年目。理科。

東京都・私立新渡戸文化高校

- ◎新渡戸文化学園は、子ども園、小・中学校、高校、アフタースクール、短期大学を擁する総合学園。そのうち高校は、1927年、経済学者・森本厚吉理事長の下、女子文化高等学院として開校。翌年、新渡戸稲造を初代校長として迎える。普通科には、美術・音楽・スポーツ・クッキング・特進医療理系・特進文系の6つのコースがあり、共通履修科目のほかに、コース別の専門的な授業を展開。
- ◎設立 1927（昭和2）年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約100人
- ◎2020年度入試合格実績（現役のみ）
私立大は、青山学院大、学習院大、成城大、明治大、立教大などに延べ50人が合格。
- ◎URL <https://www.ntobebunka.ed.jp/high/>

*1 本誌 2020年2月号「実践 アクティブ・ラーニング」(P.30-33) 参照。

図1 「未来の授業づくりに向けて」教師が話し合った問い

◎3月末 コロナ問題の長期化を予測して

- Q. コロナ問題の長期化に向けて、学校は何を最上位目標にするか？
- Q. 生徒の「安全」のために学校はどうするか？
- Q. 生徒が「安心」して学べる環境をつくるために、学校としてどうするか？
- Q. 予測不可能な時代（今の状況を含む）を生き抜くために、「必要な力」とはどんな力か？
- Q. 教科の課題をウェブサイトで掲示したり、郵送したりすることで、「必要な力」を育めるのか？
- Q. 人（生徒）は、授業があって、課題があるから学ぶのか？
- Q. オンラインツールを、何のために、どのように活用するか？
- Q. いつ、生徒たちに今後の方針を伝えるか？

◎4月から オンライン授業をスタートするにあたって

- Q. ICT環境が良好ではない生徒に、どのように対応するか？
- Q. オンライン授業でできることは何か？ できないことは何か？
- Q. オンライン授業を通して、生徒たちとどのような授業をつくっていきけるか？
- Q. 学校が再開した時にもつながる授業デザインとは？
- Q. 今だからこそ、どんな授業に挑戦できるか？
- Q. 今までの授業のあり方で見直すことはないか？

3～4月に教師が話し合ってきた問いをプリントにまとめ、生徒や保護者に配布し、学校の教育方針への理解を深める一助とした。

* 学校資料を基に編集部で作成。

教育方針の目線合わせをするため、新年度の教育活動のあり方について、全教師で議論した。山藤旅聞統括校長補佐は、次のように語る。

「現状においては、『生徒や教師の命を守る』ことが最優先である点を確認した上で、生徒が自宅にいても安心して学べる環境をつくるためにはどうすればよいか、生徒に必要な学びは何かといった点について、全教師で意見を出し合いました（図1）。そして、双方向でコミュニケーション

ションができるオンライン会議ツールの活用が最適であるという考えに至り、4月からのオンライン授業の実施が決まりました」

早速に教育活動に利用できるオンライン会議ツールを洗い出し、それらを初めて使う教師のために研修を実施。実際の授業は、ツール活用経験者と未経験者がペアで行うようにした。デバイスは、生徒所有のものを利用することにし、各家庭のICT環境を確認。デバイスを用意す

ることが難しい家庭には、学校所有のタブレット端末を貸与するなどして、全生徒が家庭でオンライン会議ツールを活用できる環境を整えた。そして、4月3日の登校日に、生徒にオンライン会議ツールのアカウントを配布。翌週の6日から、オンライン授業を開始した。

生徒の学ぶ意欲が
教育活動の羅針盤

オンライン授業の開始にあたっても、同校はそれまでと同様に、まずは生徒の声に耳を傾けた。

「想定外の事態であっても、教師の思い込みや推測で生徒に必要な学びを決めてはならないと、教師間で共有しました」（山藤先生）

「教科の授業をしてほしい」という意見は、高3生から真っ先に上がった。そこで、高3学年団は、すぐに時間割を作成し、教科のオンライン授業を始めた。同校には、希望進路に応じた6つのコースがあるため、必修科目を中心としつつ、各コース独自の科目も時間割に組み込んだ。希望進路に応じた学びの場の保障も、生徒の安心に直結するためだ。

高1・2生からは、感染への不安が相次いで上がったことから、新型コロナウイルスに関する調べ学習を教科学習に先行して行った。新年度の教育活動のあり方の検討中心メンバーだった高1学年主任の高橋純司先生は、次のように語る。

「生徒は、京都大学の山中伸弥教授が発信しているウェブサイト調べた内容を発表し合いました。専門家の知見や学術データに触れる中で、『自分が感染していると思って行動すべき』『生活様式を見直さないといけない』といった意見が多く出ました。当事者の1人として今回の事態にどう向き合うべきかを、生徒一人ひとりが考えていました」

オンライン上でも全学年で、安全な場づくりを大切にしている。例えば、グループワークは当初10人で行っていたが、「全員が話せるようにしたい」という生徒の声を受けて、1グループの人数を減らすなど、授業の進め方を柔軟に変更した。

そうして4月が終わる頃、高1・2生からも「教科の授業を受けたい」といった声が聞かれるようになり、5月からは全学年で教科のオンライン授業が行われることとなった。

平時よりも短い授業だからこそ その後の学習をより意識した内容に

5月からのオンライン授業の時間割は、3学年とも、平時の1日7コマを2つに分け、第1週を1日4コマ、第2週を1日3コマとし、2週間で平時の1週間分とした。そして、1コマは30分間とし、14時までに授業を終えるようにした（写真）。

「長時間、タブレットなどの画面を見てみると、生徒の集中力は落ちていきますし、一定の時間を超えるとオンライン会議ツールの利用は有料になります。費用は必要最低限に抑える方針でしたので、オンライン会議ツールの利用が無料の時間内に収まるよう、1コマを30分間としま



写真 大半の教師が自宅でオンライン授業を実施。オンライン授業に不慣れな教師に、生徒がオンライン会議ツールの使い方を教えることもあった。

した。そのため、生徒には自由に使える時間が平時よりも増えました。その時間をいかに活用するかが重要になると、生徒に伝えています」（高橋先生）

平時より短い授業のため、どの教師も授業内容を厳選し、進め方も工夫している。例えば、高3学年の英語では、対面授業で行っていたグループワークをオンライン授業でも取り入れ、対面授業の時よりもその比率を高くした。生徒同士の学び合いによって、理解不足の部分を補い合えるようにするためだ。

課題では、オンラインツールで問題を出すと取り組み状況などの集計がしやすいことを利用し、その日の授業内容を振り返る問題を出している。生徒の理解度を確認し、その結果を授業づくりや生徒の個別支援に生かしている。さらに平時と同様に、解答に際して教科書や辞書を参考にしてもよいと指示を出して、出題の意図を見抜く目を養うための英作文なども課している。それらの問題の正答率を確認すると、授業内容の理解度は十分と言える結果だった。

同校では、オンライン授業のほか、国語・数学・英語と、6つのコー

スに応じた課題を出すとともに、それらの課題について教師に質問したり、生徒同士で学び合ったりすることができるオンライン自習室を、毎日、放課後に2時間半設けた。曜日ごとに各教科を割り当て、その担当教科の教師が常駐するようにした。それは、生徒の要望に応じて始めたもので、高1～3生が学年を問わず集う、学びの場になった。

「生徒にオンライン授業の内容について聞いたところ、友人と学び合う時間がもつとほしいという声があり、オンライン自習室を設けました。教師はともすると、授業時数が足りない、教科書が終わらないと言って、課題を増やそうとしがちです。だからこそ、常に生徒目線で何をすべきか、何ができるかを考えられるよう、教師間で声をかけ合っています」（高橋先生）

高3生からは、「自由時間を活用し、苦手分野は2年次の教科書に戻って復習している」といった声が聞かれた。生徒が自分で考えて行動できるよう支援してきたことで、生徒は自身の学力や学習の状況をメタ認知し、自分に必要な学習を進めている。

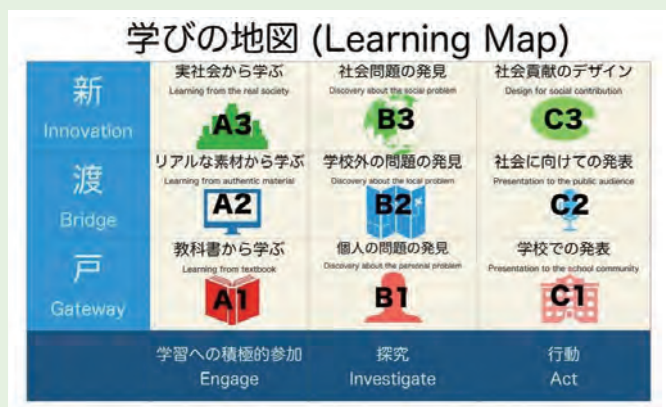
臨時休業下でも育まれていた 非認知能力の評価も重視

1学期中の学習についての評価方法は検討中だ。基本的には、全学年とも、単元テストなどによる認知能力の評価と、ポートフォリオなどによる非認知能力の評価を1対1として、全体の評価とする予定だ。

認知能力の評価では、各教科・科目で単元テストなどを実施しており、授業内容の定着度を測っている。高3生は、入試に向けた学力を客観的に把握するため、7月に全国規模の模擬試験の自宅受験の機会を設ける予定だ。そして、より重視して評価しようとしているのが、オンライン授業や課題の取り組み状況などに表れる非認知能力だ。

「授業の進め方を教師に提案したり、自分で学習計画を管理したりと、臨時休業中に、生徒の非認知能力は大きく伸びていると感じます。そうした生徒を見て、自律的学習者の育成を目指しながら、評価は定期考査が中心だったことに気づかされました。評価に関して改めて教師全員で勉強し、今後の評価のあり方について議論しています」（山藤先生）

図2 「学びの地図」



*学校資料をそのまま掲載。

「今後、再び新型コロナウイルスの感染が拡大すれば、大学入試の状況が変わる可能性は大いにあります。何が最良の選択なのか分からない中でも、生徒は自分の人生を築いていかなければなりません。生徒が社会の変化をしっかり受け止めて、自分の進路選択に責任を持てるよう、教師と一緒に考えたい」と、山藤先生は語る。

「今後、再び新型コロナウイルス

「本校では、『学びの地図』の9つの要素の育成を目指していますが、A1の『教科書から学ぶ』ばかりを評価しがちです。残り8つの要素の評価方法について、今後、本格的に議論していきます。また、A3の『実社会から学ぶ』んだり、C3の『社会貢献』に取り組んだり、生徒の学

「本校では、『学びの地図』の9つの要素の育成を目指していますが、A1の『教科書から学ぶ』ばかりを評価しがちです。残り8つの要素の評価方法について、今後、本格的に議論していきます。また、A3の『実社会から学ぶ』んだり、C3の『社会貢献』に取り組んだり、生徒の学

生徒が自身の選択に責任を持てるよう、ともに考える

高3生への進路指導についても、自分の進路は自分で責任を持って考えるよう、教師は常に生徒に働きかけてきた。3月の臨時休業に入った時点で、大学説明会などが中止になることを見越し、インターネットを活用して進路情報を収集するように伝えた。そして、4月には、担任がオンラインで個人面談を実施し、志望校や入試方式などについてどう考えているのか投げかけた。すると、推薦入試の準備について担任に相談する生徒が出るなど、自らすべきことを考え、行動していた。

ウィルスの感染が拡大すれば、大学入試の状況が変わる可能性は大いにあります。何が最良の選択なのか分からない中でも、生徒は自分の人生を築いていかなければなりません。生徒が社会の変化をしっかり受け止めて、自分の進路選択に責任を持てるよう、教師と一緒に考えたい」と、山藤先生は語る。

オンラインツールの活用によって

オンラインツールの活用によって、卒業生や社会人をゲストに招いたオンライン講演会を各学年で実施。北海道の大学に通う卒業生、デンマークに住む留学生、千葉県の農業従事者、シンガポールで働く卒業生など、住む場所も職業も多彩なゲストを招いた。ゲストの経験聞くことで視野が広がり、海外に目を向ける生徒も出てきているという。

また、保護者会もオンラインで実施。6月上旬に行った回の参加率は例年よりも非常に高く、今後も、オンラインツールを活用した保護者とのコミュニケーションを充実させていく考えだ。

生徒の成長の糧となるために教師がすべきことを常に問う

5月下旬の緊急事態宣言解除後も、同校では、6月21日までオンライン授業を継続し、6月第4週から段階的に通常授業を開始して、1学期は7月31日までを予定している(6月1日現在)。そして、平時に戻った後も、オンライン授業を週1日程度実施することを検討している。オンライン会議ツールのチャット機能を使えば発言がしやすく、それを授業参加者全員で共有しやすいといったオンライン授業ならではのよさを、今後の教育活動にも生かし、生徒の学びを支えていく考えだ。

「休業前と同じように学校行事や部活動などができない今、生徒は何をしたいと思っているのか。その何かが生徒から出てくるのを待ち、生徒が発する言葉を受け止め、前に進む支援をすることで、自律的学習者が育つと考え、教師としてすべきことを決断してきました。生徒が見えていない視点をどれだけ示し、生徒がしたいことの実現をどれだけ支援できるのかを、今後も自分たちに問い続けていきます」(山藤先生)

臨時休業下の2校の取り組み

福岡県立須恵高校

オンライン授業のメリットを 対面授業にも生かしながら、 不断の授業改善を目指す

先進事例 2

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全国的に臨時休業が続いていた4月20日、オンラインによる学習支援を始めた福岡県立須恵高校。多くの教科・科目でオンライン授業を実施したその背景には、「思考力の育成を目指した授業改善」というねらいがあった。

授業改善の延長線上として オンライン授業を急速に推進

福岡県立須恵高校は、臨時休業が続く4月20日、3年生の2クラスで数学、保健体育のオンライン授業を、1年生の一部の生徒でオンラインホームルームを実施。21日からは、学年統一時間割で午前と午後各1科目、翌週には午前2科目と午後1科目の授業を、さらに、5月の連休明

けからは、朝のホームルームおよび午前と午後の各2科目の授業をオンラインで実施し、オンライン指導の体制を急ピッチで構築していった。

同校では、臨時休業前から全教師にタブレット端末が配布されていたが、授業でのその活用はこれからという状態だった。そうした中で、4月から同校に赴任した荒木礼子校長は、新年度早々に県下の公立高校の臨時休業が決まった段階で、各家

庭への学習課題の送付などと並行して、Zoom（*1）などのオンラインツールのアカウントの取得を、県教育委員会と連携して進めた。

「オンライン指導は、ICTが得意な教師だけがすればよいものではなく、全教師が取り組むべきであると考えました。オンライン指導を単に臨時休業期間中の対症療法として位置づけるのではなく、学校再開後の授業や課題のあり方そのものを考

え直すきっかけにしてほしいと思いました。先生方には、『オンラインツールを活用してみれば、必ず指導の本質が見えてくるはずです』と、自身の指導を改善する貴重なチャンスになると呼びかけながら、一方で『携帯電話が使える人なら、Zoomも使えます』と、気軽に使ってみることを勧めました」（荒木校長）

荒木校長は、オンライン指導に同校よりも先駆けて取り組んでいた福岡県・福岡市立福岡西陵高校（和田美千代校長）が実施するオンライン指導に関する校内研修に、複数の教師と参加。その後、自校で、授業動画の配信を含むオンライン指導の実施に向けた校内研修を実施した。福岡西陵高校の校内研修に同行し、須恵高校での校内研修で主導的な役割を果たしたのが、今年度から同校に赴任した深江一美先生だ。深江先生は19年度、福岡県教育委員会から北海道の私立札幌新陽高校に1年間長期派遣され（*2）、4月から須恵高校に赴任したばかりだった。

「札幌新陽高校の校長には、『ただ学んで福岡県に帰ればよいのではなく、福岡県のために具体的に何ができるのかを考えることが大切です

*1 PC・スマートフォン・タブレットで通話に参加できるビデオ通話アプリ／サービス。

*2 本誌2020年2月号「特集」（P.22～23）参照。



深江一美
新たな学び・ICTチーフ
ふかえ・かずみ
教職歴16年。同校に赴任して
1年目。国語科。



武田康助
たけだ・こうすけ
教職歴18年。同校に赴任して
5年目。地理歴史・公民科。



依孝太郎
研究部長
たわら・こうたろう
教職歴22年。同校に赴任して
5年目。地理歴史・公民科。



溝田陽一郎
教頭
みぞた・よういちろう
教職歴30年。同校に赴任して
2年目。



荒木礼子
校長
あらか・れいこ
教職歴31年。同校に赴任して
1年目。

「よ」と、よく言われていました。札幌新陽高校で先進的なICT活用を間近に見ることができましたので、その経験も生かし、北海道で得た知識や人脈を、Zoomなどを活用して福岡県の学校教育に還元したいと考えていました」（深江先生）

深江先生が企画した、須恵高校の教師対象のZoom活用研修では、授業での使い方を理解する前に、まずは生徒になったつもりでオンライン

ン授業を楽しむことを重視した。すると、複数の教師から、「オンライン授業に挑戦してみたい」といった声が上がったため、深江先生はオンライン会議ツールの使用マニュアル（図1）を作成し、校内に配布した。

臨時休業中の知識の定着度を 單元ごとの小テストで確認

オンライン指導が始まった4月20日の段階では、ほとんどの教師が、オンライン授業を実施するのは初めてだった。しかし、5月中旬にはほとんどの教師が、オンラインによる授業動画や課題の配信、双方向型の

福岡県立須恵高校

◎校訓に「進取、敬愛、鍛練」を掲げ、生徒の行動指針として「五省」を定める。1年次より特進クラス、2年次より医療看護クラスを設置し、一人ひとりの希望進路実現を支援する。「職業探索活動」「アカデミ体験活動」など、多様な進路学習の機会を1年次から設ける。

◎設立 1983（昭和58）年

◎形態 全日制／普通科／共学

◎生徒数 1学年約320人

◎2020年度入試合格実績（現浪計）

国公立大は、佐賀大、北九州市立大、九州

歯科大に4人が合格。私立大は、九州産業大、

西南学院大、中村学園大、福岡大などに延

べ299人が合格。

◎URL <http://sue.kuad.jp>

図1 オンライン会議ツールの使用マニュアル



*学校提供資料をそのまま掲載。

授業（P.18図2・P.19図3）を行うようになり、履修進度の極端な遅れは、どの教科・科目も出なかった。3学年主任の武田康助先生も、「各教師が自分に合ったオンラインツールを使って、無理なくオンライン指導を実施している」と話す。

「生徒は1日最多で4コマのオンライン授業を受けますが、視聴の負担を考慮して、オンラインでの説明などは15分程度とし、そのほかの時間は、オフラインの状態でプリントなどに取り組みさせています。授業アンケートを見ると、大学入試を控えている3年生も、概ね好意的に受け

止めており、入試への不安の払拭につながっているようです」

だが、学習内容が生徒に定着しているかどうかを検証するのはこれからの課題だ。武田先生も、「長期間、通常の授業から離れている3年生の学力を客観的に把握するには、1学期中の模擬試験がますます重要な役割を果たす」と語る。

「ただし、入試を控える3年生においても、判定だけを見るのではなく、日々の授業で把握した生徒一人ひとりの実態と重ね合わせながら模擬試験の結果を分析し、3学年団としてのきめ細やかなサポートへとつ

図2 オンライン授業の展開例（俵先生・3年生の地理B の例）

【教科・科目】地理歴史・地理B 【分野・単元】自然と産業・資源・エネルギー 【設定時数】全6時間中の1時間目 【単元目標】資源・エネルギーに関わる分布の特徴を理解する。また、資源・エネルギーに関わる多様な問題点について多角的に考察し、解決策をまとめる

本授業での 学習内容	本授業で 身につけさせたい 資質・能力	オンライン授業の流れ			オンライン授業の工夫点 ①授業前、または 授業中に施した工夫点 ②授業をしてみて、予想よりも うまくいった点 ③授業をしてみて、予想よりも うまくいかなかった点・改善点
		タイムライン		授業内容	
		from	to		
世界の エネルギー 資源		9:00	9:03	【オンラインツールの 利用】＜導入＞ ・出席確認（1分） ・前回の授業のアン ケート回答の「問 い」への返答（1分） ・本時のめあて説明 （1分）	①スライド資料提示の仕方。 ②おおむねよい。 ③伝えられる情報は限られる。
	【知識、技能】 【思考力、判断力、表現 力】 資源・エネルギー問題の現 状や問題解決に向けた取り 組みなどについて多角的に 考察し、理解する。	9:03	9:08	【オンラインツールの 利用】＜展開＞ ・1次エネルギーの生 産・消費（5分）	①自学ノートの作成。 ②予習・授業・復習のサイクルを 身につけた生徒が増えた。 ③自身の「問い」と解決策までは なかなか難しい。
	【知識、技能】 【思考力、判断力、表現 力】 資源・エネルギーの場所 の特徴や場所の結びつ きなどに着目し、多角的 に考察し、表現する。	9:08	9:13	【オンラインツールの 利用】 ・石炭の特徴（5分）	①複数のオンラインツールを使い、 質問しやすい環境づくり。 ②おおむねよい。 ③授業後の質問は、1つのオンラ インツールに絞った方がよかつ た。
	【学びに向かう力、人間 性等】 自ら課題を設定し、関連 する地球的課題の要因 や動向などを多角的に 考察し、表現する。	9:13	9:48	【各自で自習】（35分） ※生徒の質問があれ ばオンラインツール で回答	①配信時間を10～15分で設定。 ②おおむねよい。 ③予習を行わないと難しいよう だった。
		9:48	9:50	【オンラインツールの 利用】＜まとめ＞ ・まとめを行う（1分） ・振り返りと授業ア ンケート記入の指 示（1分）	①ICT機器を2台使い、随時 チャットなどで質問などが見ら れるようにする。 ②1人で行うので、生徒の反応が 見やすくなり、授業が進めやす くなった。 ③一斉授業が始まると、学校の機 器が足りなくなるかもしれない。

よりよい授業を模索し続ける 教師たちの声

◎動画配信授業のメリットは、生徒が繰り返し見られることです。一方、デメリットは、配布したプリントなどに対する生徒の質問は、別のツールを使わないと受けつけられないことです。チャット機能を使って質問を受けつけたこともありましたが、授業に参加する生徒の数が少人数でないと対応が難しいと感じました。並行して、オンライン会議ツールを使って、K P法（紙芝居プレゼンテーション法*1）を用いた授業はポイントがよく分かったと、生徒に好評でした。オフライン、オンライン問わず、今後の授業でも取り入れていきたいです。（武田先生/地理歴史・公民科）

◎オンライン会議ツールを使った授業では、生徒の通信量の負担を減らすために、ポイントを絞った説明を心がけました。生徒からも、要点がつかみやすくなったと好評でした。オンライン授業は自分の授業を進化させるきっかけになりましたが、対面授業に比べると、生徒の反応がつかみづらいので、自己満足に陥らないようにしなければいけないと思っています。今後は、ウェブ上にドリル教材をアップし、生徒が自分の理解度に応じて学び直しができるようにしていきたいです。授業動画の蓄積によって、反転授業も進むでしょう。生徒一人ひとりに対応できる授業へと変わっていく予感がしています。（俵先生/地理歴史・公民科）

◎オンライン会議ツールを使ってチーム・ティーチングに挑戦しています。1人の教師が授業を行い、もう1人は生徒の反応やチャットを見たり、生徒の様子を授業者に伝えたりしています。授業後、「あの生徒はこういう反応だった」と、生徒の理解度や授業構成について話し合う機会も増えました。また、生徒と同じ目線での先生の授業を見ることで、生徒がどのように理解を深めていくのか、これまでとは違った視点で確認できました。ツールの使い次第で、授業改善の可能性はまだ広がっていきそうです。（深江先生/国語科）

*1 公益社団法人日本環境教育フォーラムの川嶋直氏が開発した思考整理とプレゼンテーションの手法。

*学校提供資料を基に編集部で作成。

上記の地理のほか、国語、世界史の授業の展開例がダウンロードできます

*地理、国語、世界史の授業展開例は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト（<https://berd.benesse.jp>）からダウンロードできます。「HOME」→教育情報→高校向け」をご覧ください。

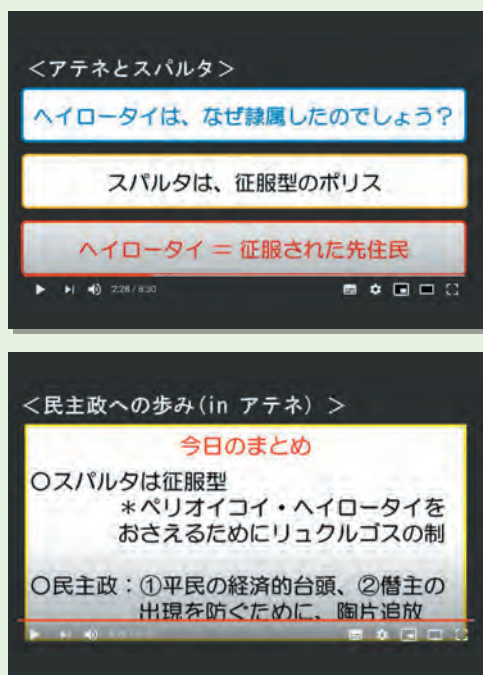
なげていくことが求められます」

臨時休業期間中の履修内容における、生徒の知識・技能の習得の状況は、各教科・科目で実施する単元テストや小テストで把握していくと、溝田陽一郎教頭は説明する。同校は、今年度より定期考査を廃止し、それぞれの教科・科目において、思考力・判断力・表現力を測る「思考力・活用テスト」、知識・技能の定着度を測る単元テストおよび小テストを実施し、生徒の資質・能力をバランスよく育成していく。

「臨時休業中の生徒間の知識・技能の定着度の差を、スモール・ステップで丁寧に確認し、それぞれの生徒の状況をつぶさに見取することで、学習の遅れを迅速に取り戻していく考えです」（溝田教頭）

同校における定期考査廃止を始めとする改革は、約5年前から同校で進められてきた授業改善の一環である。日々の学びの成果と課題を見取るためのポートフォリオの導入を始め、様々な手法で同校の授業改善が進められてきた。そして、「テストが変わることで、授業改善が最終段階に入る」という思いが、校内で高

図3 オンライン授業の授業動画



武田先生の世界史Bの授業動画の一部。対面授業で使用していたパワーポイントに音声による説明を挿入。要点を絞った、コンパクトな構成となっている。

*学校提供資料をそのまま掲載。

まっていたという。

「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成したいと考えていても、授業ではどうしても知識・技能の育成に偏ってしまいます。そうした授業を、思考力・判断力・表現力を育成する授業にしていくには、定期考査を変えるしかないと考えようになりました」（俵先生）

ここ数年、主体的な学習活動や他者との対話の場面が増えるなど、同校の授業改善は順調に進んできた。だが、学校再開後は、「3密」回避の観点などから、授業のあり方も変わらざるを得なくなるだろう。

「だからと言って、教師の一方的

な説明ばかりの授業に戻ってよいとは、もちろん考えていません。想定外の出来事を乗り越え、新しい社会を築いていくためにも、思考力・判断力・表現力を生徒に育むことが必要です。授業中の対話の時間はしばらく減るかもしれませんが、そうした中でも、主体的・対話的で深い学びをどのようにして実現していくのか、先生方と話し合っていきたいと思っています」（溝田教頭）

**教師が本音を吐露しながら
改善を進められる学校に**

3年生の進路実現を支援する上で

3年生の進路指導における

オンライン活用

同校では、例年5月上旬に3年生とその保護者を対象に実施している進路説明会を、今年度は6月2日にオンライン上で開催。日本学生支援機構の奨学金の予約採用などに関する動画を製作・配信した。また、6月からは、3年生に大学入試の出願に関する説明動画を各クラスの教室で視聴させた上で、クラス担任による対面の面談を実施していく。

「3学年団では、5月中旬からオンラインと電話での個人面談を実施しています。現時点での志望など、基本的な情報のやり取りはできていますが、生徒と教師が成績票などの資料を見ながら具体的な話をするのは、オンラインや電話では難しいというのが現状です。また、それ以上に難しいのが、面談中のちょっとした言動から、生徒の内面を察知することです。6月からのクラス担任による面談では、臨時休業によって生じていた、生徒と教師のコミュニケーション・ギャップを、丁寧に埋めていくことが求められそうです」（武田先生）

は、臨時休業中の指導経験を対面授業に生かすことが特に重要だと、同校の教師たちは考える。授業の振り返り内容や質問をオンラインで集めるなど、オンラインのよさを対面授業に生かして、引き続き授業改善を進めていく考えだ。

学校全体で授業改善の取り組みを積み重ねてきた同校だからこそ、オンライン指導を「授業や課題のあり方そのものを考え直すきっかけ」と捉えた新校長の思いを、教師たちは違和感なく受け入れられたのだろう。荒木校長も、オンライン指導を導入したことで、教師同士の話し合いの場面が一層増えたことを感じている。

おり、「先生方が愚痴や弱音をこぼしながらも、前に進める環境をつくる責任を強く感じる」と語る。

「オンライン指導は手探りの部分はまだ多く、各教科・科目の特性、そして先生ごとに合うツール、合わないツールが異なります。今年度の3年生の進路実現を支援するためにも、私たち教師が様々なことにチャレンジして、失敗したことや困っていることを率直に語り合い、お互いを支え、高め合える風通しのよい職場をつくっていききたいと思っています」（荒木校長）

NEXTを 語り合う ワークシート

『VIEW21』 高校版
2020年6月号特集

テーマ

生徒の実態から考える「高3支援」

予期せぬ長期の臨時休業や、部活動の大会、学校行事等の中止や延期を経験した高3生が、そうした事態を乗り越え、それぞれの希望進路を実現するためには、どのような支援が必要なのだろうか。目の前の生徒の実態を、様々な教師の目で多角的に捉えた上で、自校の生徒に必要な支援について語り合うツールとして、本ワークシートを活用いただきたい。

ワークシートの使い方

できれば、まずは各自が今号の特集(P.2～19)を読む。それから、高3学年団などで本ワークシートを複写、またはダウンロードし、「私が考える高3生の今後の課題」の欄に各自が記入した上で集まる。そこでは、それぞれの教師が把握している生徒の課題の共通点や差異について確認し、生徒の見取りを豊かなものにするとともに、課題への具体的な対応策を組織としてすり合わせる。

私が考える高3生の今後の課題〔キーとなる問いを基に整理〕

学習内容の定着度／学習意欲

生徒の実態を把握するためのキーとなる問い

「授業中の様子は？」「課題の取り組み状況は？」
「定期考査や模擬試験から見えてきたことは？」

進路観・志望理由の深まり／志望の変化

生徒の実態を把握するためのキーとなる問い

「面談時の様子は？」「志望理由は深まっているか？」
「進路区分（進学か就職か）や入試方式に変化は？」

をご覧ください。

集の末尾のワークシートを用いながら、校内の参加者同士での対話を通じて、自校における「教育のこれから」を実際に考えていただきます。ぜひ、校内の複数の先生方でご参加いただければと思います。

ワークショップの日時などの詳細は、本誌8月号およびベネッセ教育総合研究所のウェブサイト内のコーナー「VIEW21 express」などで後日お伝えいたします。

VIEW21 express <https://berd.benesse.jp/special/VIEW21express/>

ファシリテーター役の先生へ

本ワークシートの目的は、自校の高3生の実態を、複数の教師の視点で丁寧に把握しながら、生徒が進路実現の局面によりよい状態で臨めるような支援のあり方を考えることです。今回の特集に登場した教師の中には、「生徒は一見、この状況を冷静に受け止めているようだが、内面では不安や悩みを抱えていると思われる」と話す教師もいました。生徒一人ひとりの真の状態を把握するためには、授業や部活動の中でのちょっとした言動を見逃さず、高3学年団で共有していくことが必要です。学年団の先生方に積極的に生徒の様子を話していただく中で、生徒も教師も経験したことがない今の状況下での「生徒理解」を深め、よりよい支援につなげていただければと思います。

課題への具体的な対応策〔教師同士の対話を通じて、組織的な対応策を考える〕

個人として既に実践している対応策は？

今後、組織として実践していきたい対応策は？

個人として既に実践している対応策は？

今後、組織として実践していきたい対応策は？

2020年9月、対話を通じて「教育のこれから」について考えるオンライン・ワークショップを開催

社会の不確実性が高まり、答えが1つではない問いに向き合うことが増えている今、学校においても、教師が互いの考えや思いを共有する重要性は増えています。そこで、学校での「対話」の場づくりの一助にいただくべく、4月号から、特集の末尾にワークシートを掲載しています。

本誌の次号8月号は、「教育のこれから」を特集のテーマとする予定です。そして、同テーマにおける各校の今後の課題を整理するためのオンライン・ワークショップを、9月に開催します。特集で取り上げた学校の教師などに登壇いただき、自校の取り組みの紹介と質疑応答を行った後、登壇者とVIEW21編集部のファシリテートにより、8月号特

教師間の対話を重ねるとともに、 生徒・保護者の声も取り入れながら、 育成を目指す資質・能力を明確化



群馬県立桐生高校

◎校訓は、「独立自尊」「文武両道」。2007年度、文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定を受け、現在3期目。17年度から全校で探究学習をスタート。21年度、群馬県立桐生女子高校と統合予定。

◎設立 1917（大正6）年

◎形態 全日制／普通科（男子のみ）、理数科（男女）／共学

◎生徒数 1学年約240人

◎2020年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、北海道大、筑波大、群馬大、千葉大、一橋大、大阪大、神戸大、高崎経済大などに108人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ546人が合格。

◎URL <http://www.nc.kiryu-hs.gsn.ed.jp/>



地域の進学校である群馬県立桐生高校は、2020年3月、生徒への育成を目指す資質・能力と、それらを育成する教育活動を可視化した「グランドデザイン2020（案）」を策定した（図1）。そのきっかけとなったのは、17年度、SSH（*1）3期目の指定を受け、それまで理数科のみで行っていた探究学習を普通科にも拡大したことだった。森泉孝行校長は、次のように説明する。

「SSHでの実績を生かし、新学習指導要領の実施に先行して全校で資質・能力の育成を推進しようと考えました。SSHの研究開発目標として『主体性、協働性、問題解決能力、創造力の育成』を掲げ、探究学習を軸にすべての教育活動でその目標達成を目指すことにしたのです」

SSHの活動では、1・2年次に探究の手法を学ぶ科目「探究基礎」と、チームで課題を設定して探究する科目「探究」を学校設定科目として探究学習を推進。1・2年次ともに、年度末には大学教員や他校の教師、保護者を招く発表会を実施することにした。そして、3年次に、2年

探究学習の拡大・改善から 学校全体の教育活動の整備へ

図1 桐生高校「グランドデザイン2020（案）」



*学校資料をそのまま掲載。

*1 文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」。



次の探究学習のまとめとなる論文形式の報告書を執筆する。

探究学習の全校実施において重要な役割を果たしたのが、「探究基礎」で使用する学校独自の教材「学びの技法」だ。それは、「聞く力」「課題発見力」「情報収集力」「プレゼンテーション力」など、探究学習に必要なと

同校が定義した10項目について、独自にテキストやワークシートなどをまとめた教材で、大学生向けの探究学習の書籍を参考に教師用と生徒用の2種類を作成。教師用には、授業の進め方や時間配分などを示した指導案を加え、指導の標準化を図った。さらに、教育目標達成のために学

校全体で指導のPDCAサイクルを回せるよう、SSH担当者や各学年主任ら19人から成る「資質・能力育成部」を設置。週1回の会議で、各

学年の指導状況を共有した。一例を挙げると、18年度の1年生は、1学期に「学びの技法」で理論を一通り学んだ後、2学期に地元桐生で活動する「探究」を行った。すると、理論の習得後、実践まで時間が空いたため、生徒は理論を使いこなせなかった。そこで、翌19年度の1学年団は、「学びの技法」で「聞く力」を指導した翌週に、「探究」の実践で市役所の職員に話を聞く活動を行い、両者の連動を図った。1学年主任の高島

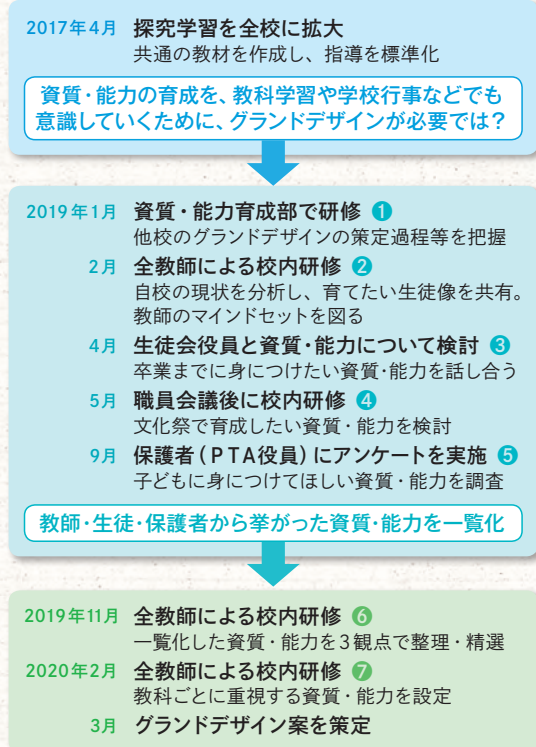
喜美夫先生は、次のように説明する。「19年度の1学年では、理論を学んだ直後にそれを実践できる活動を設け、生徒にも『先週、学んだよね』と声をかけて意識づけし、学習内容が定着するようにしました。前年度の課題を踏まえた改善ができることで、探究学習は年々進化しています」

そのように体制を整えて推進する中で、教師間に資質・能力の育成の意識が浸透していったが、一方でそれが探究学習の枠組みを超えられないといった課題も浮き彫りになった。「『探究学習は特別な活動』という意識が教師に強く、資質・能力の育成は教科学習と結びつけて捉えにくい状況でした。そこで、探究学習だけでなく、教科学習や学校行事など、どの教育活動でどの資質・能力を伸ばすのか、本校の教育活動全体を俯瞰するランドデザインが必要だと考えました」（森泉校長）

生徒の意見も聞きながら、育みたい資質・能力への理解を深化

19年1月、19年度中のランドデザインの策定を目指し、同校は動き出した。まず、資質・能力育成部で

図2 グランドデザイン策定のステップ



校内研修は、VIEW21編集部が企画や運営を数回サポート。

*学校資料、及び取材を基に編集部で作成。

研修を実施（P.23 図2①）。他校のグランドデザイン策定に関する情報等を参考に、自校の学校経営計画やSSHで掲げる育成を目指す資質・能力を踏まえて、各教師が生徒に育みたい資質・能力とそう考えた理由や思いを語り合った。加えて2月には、全教師参加の研修を実施（図2②）。数人ずつのグループに分かれて、自校の強み・弱みや自校を取り巻く環境について語り合い、それらを踏まえて自校で育てたい生徒像を考えた。その2つの研修によって、グランドデザインへの理解を深めつつ、教師のマインドセットを図った。

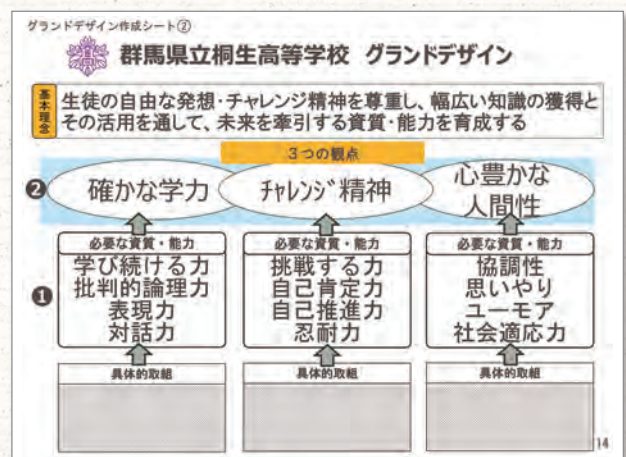
新年度を迎えた4月には、生徒会役員と生徒会担当の教師が、「高校卒業までに身につけたい資質・能力」をテーマに話し合った（図2③）。生徒からは、「企画力」「思いやり」「ユーモア力」など、教師とは異なる視点からの資質・能力が挙げられた。5月には、異動してきた教師とグランドデザイン策定の過程を共有するため、改めて全教師参加の研修を実施（図2④）。翌月に控えた文化祭で育成したい資質・能力について話し合い、文化祭後には、生徒が身につけたと思う資質・能力をアンケート

図3 2019年11月時点の「育成したい資質・能力」

育成したい資質・能力		資質・能力 育成部	教職員 研修	生徒会	保護者 (PTA役員)
知識・技能	思考力（論理的思考力）	○	○	○	○
	俯瞰力				○
	発想力				○
	質問力		○	○	○
	判断力	○	○	○	○
	交渉力	○	○	○	○
	企画力			○	○
	情報収集力		○	○	
	表現力（執筆力・プレゼン力）			○	○
	協働力	○	○	○	○
学びに 向かう力・ 人間性等	柔軟力		○	○	○
	忍耐力		○	○	○
	アドリブ対応力		○	○	○
	自己推進力	○	○	○	○
	チャレンジ精神		○	○	○
	好奇心				○
	思いやり			○	○
	学び続ける力	○	○		○
	自己肯定感	○	○		○
	挑戦する力	○	○		○
	行動力		○	○	○
	ユーモア力		○	○	
	決断力				○
	社会適応能力		○		○

教師・生徒・保護者が挙げた資質・能力のうち、より多かったものを一覧化した。
*学校資料を基に編集部で作成。

図4 グランドデザインの柱となる3つの観点の検討



*学校資料をそのまま掲載。

トに記入し、校内の共有フォルダで集約した。教師からは、「生徒は、準備を計画的に行えていない。文化祭の目的を深く考えていないからだろう。グランドデザインで文化祭の目的を意識できれば、成長が期待できるのではないか」といった意見が寄せられた。資質・能力育成部の岸直子先生は、次のように語る。

「先生方の意見から、研修が文化祭の意義や目的を改めて認識する機会になったことが分かりました。文化祭前は職員会議後の30分間の研修、文化祭後はアンケートの記入のみで

したが、実施した意味がありました」
資質・能力育成部部長の北村元教
先生は、自身も変化したと語る。

「文化祭当日には雨が降り、屋外で行う予定だった仮装行列をそのまま実施するかどうかの対応に迫られました。校長、生徒会役員、係担当の生徒と私とで話し合った結果、生徒が校舎内を練り歩くと自ら決断しました。教師は助言をしました。生徒自身が決めたという経験は大きいですし、資質・能力の育成を意識していたからこそ、私たちは生徒に判断を任せることができました」

3観点で資質・能力を整理
各教科の重点項目も挙げる

保護者にも意見を聞くため、9月のPTA役員会では、グランドデザインの策定の目的や進捗状況を説明し、我が子に高校卒業までに身につけてほしい資質・能力についてのアンケートを実施した（図2⑤）。すると、「プレゼンテーション能力。仕事では人前で発表する機会が多い。自分の経験から、若い時に身につけておけばよかったと思う資質・能力の1つ」「柔軟性。物事を柔軟

図5 各教育活動で育成を重視する資質・能力

育成したい資質・能力		国語	地歴・公民	理科	数学	英語	体育・芸術	探究	部活動	行事
知識・技能	①確かな学力	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	②思考力（論理的思考力）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	③発想力	○		○	○	○	○	○	○	○
	④質問力	○		○	○	○	○	○	○	○
	⑤判断力				○		○	○	○	○
	⑥交渉力		○			○	○	○	○	○
学びに向かう力・人間性等	⑦表現力（執筆力・プレゼン力）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑧協働力	○	○		○	○	○	○	○	○
	⑨忍耐力	○	○		○	○	○	○	○	○
	⑩アドリブ対応力				○	○	○	○	○	○
	⑪思いやり	○		○		○	○	○	○	○
	⑫学び続ける力				○	○	○	○	○	○
	⑬行動力	○	○	○				○	○	○
	⑭ユーモア力							○	○	○
	⑮社会適応能力		○			○		○	○	○

＊学校資料を基に編集部で作成。

に考えられれば、行動力や表現力など、ほかの資質・能力の向上にもつながるのではないかと、生涯にわたって必要な資質・能力という視点で回答した保護者が多かった。それには、学校からの情報発信や保護者のニーズの変化などが影響していると、教務主任の七原登先生は語る。

「各学年とも、学年通信等を通じて、社会で求められる資質・能力や

新学習指導要領について発信してきました。保護者はそれらをしっかりと受け止め、資質・能力の育成の必要性に共感してくれたのでしよう」

そして、収集した教師・生徒・保護者の意見をまとめ、グラントデザインとして形にする工程に入った。11月の全教師参加の研修（図2⑥）では、教師・生徒・保護者から多く挙げられた資質・能力（図3）を「資質・能力の3つの柱」で分類。それを基にグラントデザインの柱となる観点を決めるため、8つのグループに分かれ、各メンバーの案を共有した上でグループの案を作成した。

それらの案を、20年2月の全教師参加の研修（図2⑦）で共有し、グラントデザインの観点を検討した。その結果、自校の教育理念に最も合っていると多くの教師が納得したグループ案（図4）を基に、「確かな学力」「チャレンジ精神」「豊かな人間性」の3つを観点に決定。そして、教科ごとのグループに分かれて、その3つの観点で資質・能力を分類し、それらを育成するための各教科の具体的な取り組みを検討した。

資質・能力育成部では、2回の研修の結果を踏まえて育成を目指す資

質・能力を、①確かな学力④社会適応能力に集約。その中から担当教科で育成を重視する資質・能力を各教科主任に挙げてもらった（図5）。

校外外への周知と具体的な活動への落とし込みを強化

そうしてたどり着いたのがグラントデザイン案（P.22図1）だ。3学年主任の山田精一先生は、それまでの検討過程を次のように振り返る。

「3年間、全校で探究学習を推進してきた結果、私たち教師の主体性や協働性などが磨かれていったのでしよう。だからこそ、一枚岩で議論ができ、教師のボトムアップでグラントデザインを策定できました」

20年度は早々にグラントデザインを完成させ、校外外に発信するとともに、教育目標として設定する資質・



写真 資質・能力を育成するための各教科や学校行事などでの具体的な取り組みを、職員室の掲示板で共有した。

能力を育成するための取り組みを教育活動ごとに具体的に提示し、それを実践する予定だ（写真）。2学年主任の星野亨先生は、次のように語る。

「教師が15の資質・能力を意識し、その育成につながる指導に落とし込むことが重要です。例えば、『探究』の学年末の発表会では、大学教員から厳しい指摘を受け、泣き出す生徒もいますが、その挫折も含めて『探究』なのです。生徒が自分の資質・能力をメタ認知し、自身の成長に向けて踏み出せるよう、教師がどう働きかけるかが重要です。そうした指導を学校全体でできるよう、指導のあり方を共有していきたいと考えています」

教師同士で何度も語り合い、生徒や保護者の声を丁寧に聞いてきたことは、21年度に控える群馬県立桐生女子高校との統合にも生きていくだろうと、森泉校長は語る。

「探究学習の指導とグラントデザインの検討を通じて、統合後の新しい高校のグラントデザインの土台ができました。資質・能力の育成を目指した指導の重要性を理解した教師は、新しい高校の力強い推進力になると期待しています」

本誌 2016 年 6 月号掲載

授業を進化!

思考を深化!

実践 アクティブ・ラーニング

日本史

仲間と普遍的な問いに向き合う中で 知の統合化を図り、 人間的な成長を実現する

9:50 授業開始



授業開始の前に、前川先生が各グループに水性マーカー、模造紙1枚、A4サイズの白色用紙数枚、そして授業プリントを配布。模造紙はポスター発表、白色用紙はKP法（紙芝居プレゼンテーション法）（※1）で使用する。学習の成果をどちらの手法で発表するかは、各グループが自由に選択できる。

●2年生「日本史」の授業には、志望進路が異なる複数のコースから生徒が参加。この日は元禄文化をクローズアップし、「元禄期の文学」「儒学の興隆」「諸学問の発達」の3つのテーマ別にグループ活動を行い、最後に一人ひとりが「あなたが元禄の人なら、文化とどうかかわったか？」を考えた。（P.29に授業デザインを掲載）

前川先生のアクティブ・ラーニング

細かな知識の収集よりも
「思考のひっかかり」を重視

2015年9月から日本史の授業でアクティブ・ラーニングを行うようになった前川先生。それまで、教師による説明中心の授業を受けてきた生徒たちからは当初、戸惑いの声も上がったという。だが、授業での教師からのインプットの時間が明らかに減ったにもかかわらず、模



福岡県・私立明光学園中学校・高校

前川修一 まえかわ・しゅういち

教職歴21年。同校に赴任して13年目。進路指導部長。

高校では、日本史、倫理のほか、学校設定科目の「キャンパスデザイン」（キャリア教育）を担当。

アクティブ・ラーニングの実践は2年目になる。

福岡県・私立明光学園中学校・高校

◎「真実にして、叡智に富み、義務を重んぜよ」を校訓に、カトリックの精神に基づく全人教育を展開。地球的視野で物事を思考し、実行できる人材の育成を目指す。また、様々な国際交流プロジェクトを通して実践的な語学力を育む。

◎設立 1952（昭和27）年

◎形態 全日制／普通科（ソフィア、選抜英語、総合進学、総合音楽、総合美術の5コースを設置）／女子

◎生徒数 1学年約80人

◎2016年度入試合格実績 現浪計 国公立大は、東京芸術大、九州大、佐賀大、大分大、名古屋市立大などに合格。私立

大は、上智大、法政大、立教大、同志社大、立命館大などに合格。

◎URL <http://meiko-p.kit.com/>

※1 公益社団法人日本環境教育フォーラムの川嶋直氏が開発した思考整理とプレゼンテーションの手法

P.26～29は、本誌2016年6月号「授業を進化! 思考を深化! 実践アクティブ・ラーニング」(P.32～35)を再掲載しています。

10:02 グループ活動



生徒が4、5人ずつ、合計3つのグループに分かれて、各グループが「元禄期の文学」「儒学の興隆」「諸学問の発達」の中から1テーマを担当してまとめる。前川先生は机間巡視しながら、「大枠をつかめばいいよ」「教科書の内容をそのまま写しても意味がないよ」と生徒に声をかける。

9:52 前時の振り返りと本時の問いの提示



前回の授業時に生徒が10文字以内で記述した「中学社会」の記憶に基づく「元禄の印象」を、前川先生が白色用紙に簡条書きし、それを黒板に貼りながら前時の振り返りを行った。その後、この日の授業での最終的な問いである「あなたが元禄の人なら、文化とどうかかわったか？」を生徒に提示。

試や校内テストの結果が悪化することではなく、むしろ記述式の問題に最後まで解答する生徒が増えるなど、思考に粘り強さが生まれていることを生徒も実感するようになっていった。

「授業での知識のインプットが減っても成績が落ちないのは、授業内で『思考のひっかかり』がたくさん生まれているからだと思います。例えば、今日の授業だけで『元禄文化が整理された』と言い切れる生徒はいないでしょう。しかし、授業の1シーンや誰かの言葉など、何かに残ったものがあれば、後日、定期考査などの勉強で教科書やプリントに戻った時に、理解の進み方が違うのではないかと思います」

アクティブ・ラーニングを授業で行うようになったことで、生徒は授業の中でも、他者ともっと知的に、密接につながりたいと思っていることに、教師である自分自身が気づいたことも大きな成果だと前川先生は語る。

「どの生徒も学びたがっていますし、自分の考えを話したがつています。ただ、授業のスピードについていけなかったり、教師やほかの生徒の目を気にしたりして、思うように発言できなかっただけなのです。グループ活動に慣れた今では、生徒は自分と違うペース、観点で思考する人との協働作業を楽しんでいます。授業中の居眠りもありません。また、教壇に立つ私も、生徒同士がつながった学びを支援するというこれまでにはない喜びを味わえています」

仲間と、そして教師と 学び合いながら知を統合する

前川先生の授業では、「個別での知識の収集」よりも「集団での知識の統合」を重視している。この日も、前川先生による前回の授業の振り返りは、KP法を用いて簡潔に行われ、その分、グループでのまとめ、発表に多くの時間が割かれた。

「他者と話し合い、説明することで、知が統合され、自分の中に知識が定着します。だから、グループ活動にはしっかりと取り組ませたいのです。アクティブ・ラーニングで一番重要なことは、ともに学ぶ他者が存在することです。自分1人で分かったような気になるのではなく、誰かと相談したり、誰かに説明したりするなど、他者との関係の中で学びが成立することに大きな意味があります」

今回の授業では、グループごとに異なるテーマを深めていったため、個々の生徒が理解するのは、基本的には自分が所属するグループの担当テーマについてである。しかしながら、担当テーマをじっくり考察して歴史の捉え方をつかむことで、ほかのグループの発表を聞いた時に全体像が理解しやすくなり、後日、テスト勉強などで教科書やプリントに戻った時の全体理解が一気に深まると前川先生は説明する。

「ほかのグループの発表と併せて、発表に対

10:20 各グループの発表



各グループ最大3分で発表を行う。ポスター発表を選んだのは1グループ、KP法を選んだのは2グループ。グループの発表が終わる度に、前川先生は間違いがあれば指摘し、さらに、「なぜ、同じ儒学がこんなにいろいろな派に分かれたの?」などと、教科書には答えが載っていない質問を生徒にぶつけた。

10:15 グループ活動が佳境に



グループ活動開始から10分が過ぎた頃から、各グループでの発表準備が佳境を迎える。各グループは、「あ、ごめん!」「大丈夫、大丈夫!」「やばい!」「O K、いけるよ!」などと声をかけ合いながら作業を進める。前川先生は「細かいことは書かないでいいよ!」とさらに声をかける。

する私の質問を聞くことで、ほかのグループのまとめた内容が理解できたり、全体像に関心を持ったりするきっかけになります。教科書に書いてあることを確認するような質問ではなく、人間の営みを普遍的に考えるような問いを心がけています」

思考の活性化・深化への配慮

深く考えたくなる問いを投げかけ 短い言葉でまとめさせる

授業の成果として、「思考のひっかかり」をそれぞれの生徒が得られるように、前川先生は「10文字以内での記述」をしばしば生徒に求める。例えば、今回の授業の冒頭で行われた前回の授業の振り返りでは、元禄時代の印象を「娯楽が多い」「学問が発達」「文化の担い手が多彩」など、様々なキーワードで示したが、それらは全て、前回の授業後に生徒が提出した「リフレクションシート」の中から前川先生が抽出したものだ。

「10文字以内と区切るの、だからだと考えさせたくないからです。10文字という制限があることで、本当に言いたいこと、大切なことを見抜けるようになります」

また、毎回の授業で提示する「問い」も、生徒の思考が深まるものであるよう、十分配慮する。今回の授業での「あなたが元禄の人なら、



実際に絵巻物を見ながら授業を行うこともある。「絵画資料は、生徒が考えたくなる問いを立てるのに便利」という前川先生。16年度は、絵画資料を生かしたアクティブ・ラーニングの研究を進めるという。

文化とどうかかわったか?」という問いも、「深く考えたくなるような漠然としたものであることが肝心」と前川先生は説明する。
「歴史的思考力を培うために必要なものは、現代的な視点です。だから、私は『自分だったらどうするか』をよく生徒に問います」

場づくりへの配慮

グループ意識の徹底で 安心・安全な学びの場ができる

前川先生の授業で特に印象的なのは、グループ活動に取り組む生徒が盛んに声をかけ合うことだ。活動の終盤、発表に向けてまとめを行う

授業デザインシート

【教科・科目】日本史B

【分野・単元】幕藩体制の展開

【テーマ・作品】元禄文化

【設定時数】10 時間中の9時間目

【本時全体の目標】元禄文化の特徴をつかむ

学習内容	自校の生徒の特性を踏まえた各学習内容における主な目標（身につけさせたい力・姿勢）	左記の力・姿勢の「学力の3要素」への分類	左記の力・姿勢を育むための指導内容	教師による発問・働きかけの内容	教師が特に観察・配慮すべき点
授業の目的と目標	この授業の目的、及び目標を理解し、授業の達成点をどこに置くか確認する。	- 技能 - 主体性	【教師】この授業の目的、及び目標を理解できるよう、授業の達成点をどこに置くか分かりやすく提示する。 【生徒】この授業の目的、及び目標を理解し、授業の達成点がどこか確認する。		短く端的に、分かりやすく提示する。
先週の問いとその答えを共有する	- 振り返る力 - オープンクエスチョンにより促される歴史的思考力	思考力	【教師】前時に考えたことを共有させ、元禄という時代を「自分事」として考えさせ、歴史的思考力を培う。 【生徒】自分以外の生徒がどう考えたのか認識することにより、自分の考えをさらに深める。	前時の問いにみんながどう答えたか見てみよう。	本時の導入につながっている点を共有する。
元禄文化の特色（講義）及び本日の問い	- 傾聴することにより思考を整理する力 - オープンクエスチョンにより促される歴史的思考力	- 知識 - 思考力	【教師】KP法（紙芝居プレゼンテーション法）を用いて、元禄文化の特色について簡単に講義する。本日の問いを投げかける。 【生徒】講義を傾聴し、疑問点を整理する。出された本日の問い（「あなたが元禄の人なら、文化とどうかわったか？」）を考え始める。	あなたが元禄の人なら、文化とどうかわったか？	KP法を用いて、文化全体の概観が次の作業につながるように心がける。
元禄文化の諸要素「文学」「儒学」「諸学問」について学ぶ①【エキスパート活動】	仲間と協力して知識を整理し、アウトプットに努め、課題を解決する力	- 知識 - 思考力 - 判断力 - 主体性 - 多様性 - 協働性	【教師】グループ学習・発表のやり方を説明し、机間巡視とともに適宜介入して作業を促す。 【生徒】4人グループをつくり、元禄時代の「文学」「儒学」「諸学問」についてまとめ、グループで発表の準備をする。発表の仕方については、ポスターまたはKP法（紙芝居プレゼンテーション法）のどちらかを選ぶ。	何を見てもよいです。時間内に終わらせよう。図式化大歓迎！	作業する人とならない人に分かれないうように、細かく分担させる。
元禄文化の諸要素「文学」「儒学」「諸学問」について学ぶ②【ポスターツアー（KPPT）】	仲間と協力して知識を整理し、課題に対する答えを表現する力	- 表現力 - 主体性 - 多様性 - 協働性	【生徒】4人グループでポスターまたはKPPT（KP法によるポスターツアー）の方法で数分ずつ発表する。発表しないグループは傾聴し、適宜質問する。 【教師】生徒からの質問が出ない場合は適宜、オープンクエスチョンによる質問を投げかけ、次時までに考えさせる。	なぜ、儒学は多くの学派に分かれたの？（などの質問を適宜ぶつけ思考を促す）	発表するグループと、聴く側のグループが学び合えるように質問を促し、思考がさらに深まるよう教師からも質問する。
確認テスト	- 知識を整理し、定着する力 - 仲間と協力して、問題を解決する力	- 知識 - 思考力 - 判断力	【生徒】 - まず個人で思考する。 - 分からなかったら仲間聞く。聞かれた生徒は自分の考えを説明する。 - チームで満点を目指す。	チームで満点を目指そう！	チームで満点を取れるよう促し、達成感を持たせる。
リフレクション	- 課題を考える力 - 全体を振り返り、整理する力	- 思考力 - 主体性	【生徒】 - 全体を振り返り、知識の定着を図る - 次時への課題・関心につなげる		「質より量」を意識させ、なるべく多くの言葉を記させる。

*前川先生作成の授業デザインシートを編集部が一部改編

時、あるグループでは、書き損じた生徒が「ごめん！」と口にする、ほかの生徒が次々に「いいよ」「大丈夫！」と即座に返し、別のグループでは、「時間、まだあるよ」などと互いに励まし合う声が聞こえた。

「短時間でグループでまとめるためには、下書きをしていると間に合いませんから、ほとんど書き進めていかないといいません。最初は、なかなか手が動かず、時間内にまとめられないグループもありました。しかし、グループで協力して1つのものを完成させるという意識が徹底してくると、作業はかどるようになり、声かけも盛んになっていきました。授業では、自分の力だけでなく、みんなの力で問いに向き合えばよいのだと私が繰り返し説明することで、授業は生徒にとって安心・安全な場へと変容します。だからこそ、『ごめん』『大丈夫』といったやり取りが可能になり、いろいろな意見を認め合うことができるのです。そして、そういった場をつくらなければよりよい意見が得られないことも、生徒は体験的に理解しています」

教科の学びと社会で生きるための力の育成が並行していることが、アクティブ・ラーニングの魅力であると語る前川先生。

「アクティブ・ラーニングに取り組む前は、それが遠回りの指導のように思ったこともあり。しかし、生徒の人的な成長という意味では、一番の近道なのだと今は確信しています」

前川先生の授業に、その後どのような変化が？

実践 アクティブ・ラーニング

日本史

より根源的な問いで
歴史を「自分事」として捉えさせ、
自ら思考を深める力を育む

福岡県立ありあけ新世高校

前川修一 まえかわ・しゅういち

教職歴 25 年。同校に赴任して 2 年目。教務主任。定時制 1 学年担任。地理歴史・公民科。担当科目である日本史の授業にアクティブ・ラーニングの視点をいち早く導入。学校を超えて多様な教師が集まり、授業改善について考える研修会を継続的に開催することで、全国の高校教師のネットワークづくりにも貢献している。

福岡県立ありあけ新世高校

◎校訓「自律・自強・飛躍」の下、「新世生よ、人生のプロデューサーたれ!」を校是とし、充実した高校生活を送ることによって、社会で自立できる力を育む。

◎設立 2003 (平成 15) 年 ◎形態 全日制・総合学科/定時制・普通科/共学 ◎生徒数 全校生徒 502 人

◎2020 年度進路実績 進学 124 人、就職 30 人。

◎URL <http://ariakeshinsei.fku.ed.jp/Default2.aspx>



2016 年 6 月号に登場

前回の取材後からの授業の変化

生徒がより考えを深められるよう、授業の導入を工夫し、問いを使い分ける

本誌 2016 年 6 月号の本コーナーに登場した前川修一先生は、現在、福岡県立ありあけ新世高校に勤務している。前回の取材後から、授業展開の基本構造は変わっていないが、指導方法の面ではいくつかの新しい試みを行ってきた。

その 1 つが、16 年 9 月頃から取り入れている「看图アプローチ」だ。それは、授業の導入に絵や写真などの史料を提示し、生徒に「この絵の登場人物は何をしていると思う?」などと問いかけ、いくつかの選択肢の中から答えさせていく方法だ。「絵や写真を見て、自分なりに想像して選択肢を選ぶことは、予備知識がなくてもできます。授業の導入に用いることで、学力に関係なく、すべての生徒が無理なく授業に参加できるようになりました」

加えて同時期に、単元ごとにメイン・クエス

図 1 メイン・クエスチョンとファンダメンタル・クエスチョンの例

単元名	メイン・クエスチョン (MQ)	ファンダメンタル・クエスチョン (FQ)
文化の始まり	旧石器・縄文・弥生の各文化を分けるものは何か?	人は、なぜ便利な暮らしを追い求めようとするのか?
農耕社会の成立	倭の小国の王たちは、なぜ中国に使者を送ったのか?	外国(人)とつき合う時に大事なことは何か?
古墳とヤマト政権	古墳時代を 3 つに区分する理由は何か?	リーダーが部下を従わせる時に気を配ることは何か?
飛鳥の朝廷	飛鳥の朝廷が目指した国づくりは、具体的にどんなことか?	外国とのつき合いは、国内政治にどのような影響をもたらすか?

*『歴史教育「再」入門』(前川修一・梨子田喬・皆川雅樹編、清水書院、2019.12) を基に編集部で作成。

ション(MQ)とファンダメンタル・クエスチョン(FQ)を設定し、その 2 つを場面に応じて使い分けて生徒に問いかけることも取り入れた。MQ は、その単元で学ぶべきテーマを端的に示した問いで、FQ は、その単元での学びを通じて、生徒に社会のあり方や自身の生き方を考えてもらう

図2 授業展開の各段階と主な方法

段階	主な方法
参加	看图アプローチ 授業に参加しやすくなるよう、ビジュアルテキストを基に、選択肢で生徒に問いかける。問いを重ねるごとに、より本質的で深い学びにつなげる。
理解	知識構成型ジグソー法（＊１） 史料を基に、生徒同士の対話的な学びで、学習内容の理解を深めることを目指す。 MQ・FQ 2つの問いを使い分け、生徒に当事者意識を持たせて、思考を深めさせる。
習得	KP法（紙芝居プレゼンテーション法） 教師が説明するだけでなく、生徒自身に学んだことをまとめ、発表させることで、習得を確かなものにし、また、習得事項を活用する力を育む。
活用	

＊前川先生の取材を基に編集部で作成。

ためのより根源的な問いだ（図1）。

「歴史を遠い過去の出来事としてではなく、自分のあり方や生き方にも生かすことができる『自分事』として捉えて考えられるよう、生徒にMQと一緒にFQも問いかけています。生徒が授業後に提出するリフレクションシートを見ると、回数を重ねるごとに記述量が増え、その内容も、授業で学んだことを現代の社会問題や自分の生き方に結びつけて記述するようになっており、考えを深めている様子が見て取れます」

前川先生の現任校である定時制高校には、学ぶ意欲をなかなか持てない生徒が少なくない。そうした生徒が、授業に「参加」して、学んだことを「理解」「習得」し、その内容を「活用」できるようになるための授業をいかにつくればよいのか。前川先生は赴任当初、生徒の状況に即した授業デ

ザインを新たに考えようとしていた。ところが、

授業を進めるうちに、定時制で求められる指導は、明確に体系化していなかっただけで、既に前任校で実践していたものと同じだと気づいた。そこで、授業を4段階に整理し、各段階に適した方法を工夫して授業を展開することにした（図2）。

「次第に学びに意欲的になっていく生徒の姿を見て、生徒の学びの段階に応じて、きめ細かく支援していけば、どのような学校であっても、限られた授業時間内でより深い学びへと誘うことが可能であることを実感しました」

授業の変化の背景

教育関係者との情報交換や書籍などで学び、新たな方法を積極的に導入

前川先生は、14年の高大接続改革答申（＊2）でアクティブ・ラーニングの視点が提唱された頃から、その実践研究を進めてきた。背景には、教師による講義型の授業だけでは、生徒の学習意欲や思考力を伸ばすことへの行き詰まり感があつた。

アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を行うようになってからも、多様な教育関係者と情報交換を重ね、また、書籍などで最新の指導理論や方法を学んだ。そして、効果が期待できそうな方法を、積極的に授業に取り入れていった。看图アプローチも、協同学習の研究者として知られる鹿内信善教授（現・天使大学）から直接学び、その方法を習得した。

今後の展望

自ら問いを深める力があれば、限られた時間でも深い学びはできる

福岡県の公立高校は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、5月17日まで臨時休業だった。1学年担任の前川先生は、オンラインツールを使ったホームルームを行う中で、学級づくりの導入にオンラインツールの有効性を感じたと語る。

「定時制には、過去に不登校を経験するなど、人とかかわりが苦手な生徒が少なくありません。オンラインでは、ほかの生徒と直接顔を合わせなくてもコミュニケーションが取れるため、新しい人間関係に徐々に慣れることができたようです」

看图アプローチなどで用いる史料はオンラインでも示すことができたり、生徒同士の意見交換も、生徒をオンライン上でいくつかのグループに分けて行うことができたりすることから、授業においてもオンラインツールの有効性を実感している。そのため、今までの授業スタイルをオンラインで展開することは、十分可能だと考えている。

また、学校が再開した今、授業時数の確保が課題と言われているが、前川先生は次のように指摘する。「仮に授業時数を確保できなかったとしても、主体的・対話的で深い学びを通じて、授業で学んだ内容を自分事として捉え、自ら問いを深めていける力を身につけた生徒は、限られた授業時数の中でも深い学びができるはずです。そうした授業を実践しなければならぬと、強く感じています」

＊1 ジグソーパズルを解くように、協力して全体像を浮かび上がらせる協同学習法の1つ。ある課題について、複数の視点で書かれた資料を読む「エキスパート活動」、そこで得た知識を交換し、考えを深めていく「ジグソー活動」、全体でグループの意見を交換する「クロストーク活動」の3つの活動から成る。＊2 「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革について（答申）」のこと。

宮城県気仙沼高校

探究学習

地域の課題と向き合う
探究学習を学校全体で推進し、
自ら考え行動する生徒を育成

変革のステップ

背景と課題

- ・進路選択において主体性が乏しい生徒が多かった
- ・進路の多様化に対応し、地域を「内」と「外」から見る視点を養う必要があった

実践内容

- ・生徒や地域の課題を整理し、育てたい生徒像を議論 教師間で話し合い、育成を目指す9つの資質・能力を設定
- ・1年生全員が対象の「地域社会研究」を導入 S G H (*1) の指定を受け、1年生全員が学校設定科目「地域社会研究」で探究学習に取り組む
- ・生徒の様子から探究学習の指導を模索 生徒一人ひとりと向き合い、生徒の状況や考えに合わせて声かけ・働きかけを工夫しながら、探究学習の指導のあり方を体得

成果と展望

- ・生徒の主体性が向上し、自主的な活動が活発に。卒業後に学びたいこと、進みたい道が明確になり、教科学習にも能動的に取り組むようになった
- ・学校全体に探究学習を推進する機運が高まった

学校でしかできない学びとして、
探究学習を教育活動の柱に

宮城県気仙沼高校は、2018年の同気仙沼西高校との統合に備えて、新たな学校づくりを進めてきた。地域の実情や生徒の課題を整理し、育てたい生徒像を語り合う中で、課題の1つに挙げたのが、進路選択において主体性が乏しい生徒が多いことだった。研究企画部 S G H 主任の鈴木悠生先生は、当時をこう振り返る。

「この地域には大学がなく、都市部から離れていることもあり、昔から生徒にとって大学は身近な存在ではありません。大学情報をインターネットなどで調べられるようになって、教師からの情報提供を待っただけの受け

PROFILE



宮城県気仙沼高校と同県が浦高校が統合して開校。2018年度、同気仙沼西高校と統合し、市内唯一の県立普通科高校となった。防災教育や志教育、地方創生につながる学習、自主参加形式の英語学習など、多様な教育活動を展開。

設立 2005（平成 17）年

形態 全日制・定時制／普通科／共学

生徒数 1 学年約 240 人

2020 年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、北海道教育大、弘前大、岩手大、東北大、宮城教育大、山形大、福島大、東京海洋大、宮城大などに 42 人が合格。私立大は、東北学院大、慶應義塾大、東京理科大、法政大、明治大、早稲田大などに延べ 182 人が合格。

住所 〒988-0051 宮城県気仙沼市常楽 130

電話 0226-24-3400

Web site <https://kesennuma-h.myswan.ed.jp>

*1 文部科学省のスーパーグローバルハイスクール。



身の生徒が多く、進路選択では、偏差値以外の尺度を持たない生徒や保護者が少なくありませんでした。また、本校には、進学などで地域を離れた後も『外』から地域に貢献する人材と、就職で地域に残ったり、Uターンしたりして、『内』から地域を支える人材の両者を

校長

狩野秀明

かの・ひであき

教職歴35年。同校に赴任して2年目。「教師が夢を語らず、誰が語るのか。全国に誇れる学校を、今いる先生方とつくりたい」

教頭

高瀬琢弥

たかせ・たくや

教職歴27年。同校に赴任して1年目。「生徒の心に火をつけ、地域復興の人材を育成し、地域とともにある学校を目指す」

主幹教諭、研究企画部長

小松代晃匡

こまつしろう・てるまさ

教職歴30年。同校に赴任して2年目。地理歴史・公民科。「創造性豊かで、高い志を持った人材を育てられるよう、日々精進したい」

進路指導部長

菅原裕行

すがわら・ひろゆき

教職歴25年。同校に赴任して3年目。数学科。「生徒が自分の成長を感じられるよう、進路指導を通してサポートしていきたい」

研究企画部SGH主任

鈴木悠生

すずき・ゆうせい

教職歴10年。同校に赴任して6年目。理科。「理想を抱くこと。生徒の、世界の未来に種をまく。よいものをみんなで」

研究企画部、地域社会研究担当

揚野耕平

あげの・こうへい

教職歴9年。同校に赴任して5年目。英語科。「生徒との対話を重視し、生徒が主体性を持って何事にも挑戦できる環境づくりを目指す」

育成する使命があります。地域を外と内から見る視点を育む必要性も感じていました」

そうした現状を踏まえた上で、変化し続ける社会や大学入試に対応することができる資質・能力をしっかりと育む必要があると考え、探究学習を教育活動の柱に据えたと、統合前から同校の教頭を務めていた狩野秀明校長は語る。

「生徒に、自ら情報を収集する経験を積ませたいと考えました。また、知識・技能は、学校外の学習でも習得できますが、答えが1つではない問いについて、生徒同士が話し合い、合意形成をしながら答えを見いだす探究学習は、学校でしかできません。統合後は学力や希望進路が一層多様化すると予想されましたが、だからこそ、そうした学びを学校全体で推進すべきだという結論に至りました」

身近な地域から課題を見いだし、地域と連携して研究に取り組む

同校は、全国の探究学習の先進校を視察した上で、自校における探究学習の検討を始めた。まず、育成を目指す9つの資質・能力を設定し、教育活動ごとに各資質・能力を育成する場面を示した「スモールステップ表」(図1)を作成。1年次は、全員が学校設定科目「地域社会研究」で、希望進路によって3つの類型に分かれる2年次以降は、「創造類型」が「課題研究Ⅰ・Ⅱ」、その他の類型は「総合的な学習の時間」で、探究学習を行うカリキュラムとした。そして、S

図1 育成を目指す9つの資質・能力と「スモールステップ表」(抜粋)

【育成を目指す資質・能力】 ①基礎的・基本的な知識・技能、②批判的思考力・科学的思考力、③総合的思考力・未来思考力、④語学力(英語力も含む)、⑤言語的コミュニケーション力、⑥情報活用能力、⑦多様性、⑧協働性、⑨行動力

育てる 資質・能力	基礎的・基本的な知識・技能	思考力	
		批判的思考力・科学的思考力	総合的思考力・未来思考力
事業名・事業内容	- 基盤となる精選された知識・技能 - 学ぶ力(学ぶ意義や学び方)の育成	合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、建設的・発展的に思考・判断する力	- 自然や社会システムを理解し、目的や課題を明らかにして、多面的・総合的に考える力 - 過去や現在を踏まえ、あるべき未来像を創造し、シミュレーションして計画する力
	①科学的研究の過程の理解 ①科学的研究の仕方学ぶ ①地域理解講座 ①発表会(ポスター)	①[海]海とのかかわり、地域の基本的な課題を理解する ①[課題設定]中学校での学習や予備調査・講義に基づいて地域課題を設定する ①[研究計画]具体的な研究計画	①[海]海とのかかわる地域課題について、教科横断的に知識を使い、科学的に研究する ①[課題設定]科学的に解決可能な課題を設定する ①[研究実行]科学的手法を理

「スモールステップ表」では、教育活動ごとに9つの資質・能力それぞれを育成する場面を明確化した。

*学校資料を基に編集部で作成。「スモールステップ表」の全体は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト(<https://berd.benesse.jp/>)からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」をご覧ください。

GHの指定を受けた16年度、探究学習をスタートさせた。その進め方を具体的に見ていく。
1年次の地域社会研究では、防災・産業・人間・文化・自然の5領域の中から1つを選び、同じ領域を選んだ生徒同士でグループを組み、地域に関するテーマを設定して研究する。まず、5月に行われる5領域の各専門家による講演で、地域の課題への理解を深める。生徒が本気で取り組むためには、実際の社会課題に触れること

が不可欠と考え、市役所や地元企業、震災の復興支援に携わるNPO法人などに講演を依頼した。

7月までに研究領域とテーマを決定。10月の中間発表会までの活動を「研究活動a」、中間発表会での指摘を踏まえたその後の活動を「研究活動b」とし、連携先の企業やNPO法人などを訪れて聞き取り調査を行ったり、東北大学や東北工業大学などを訪問して研究者からアドバイスを受けたりして、研究を深めていく。研究テーマは、「さんまの不漁の原因と改善」「仮設店舗の復興は順調なのか」などだ。

「地域全体で子どもを育てよう」という意識が、この地域には根づいており、復興に向けて、以前にも増して連携が強まっています。本校の多くの卒業生が地域で活躍しており、企業などに『内と外の両面から地域を支える人材を育てたい』という思いを伝えると、どこも連携を快諾してくれました」（鈴木先生）

1月の学年発表会では、各グループのポスターセッションを実施。連携先の市役所などの関係者に加え、保護者も交えた大勢の来場者を前に、生徒は堂々と発表し、質疑にも答える（写真）。

「発表内容を見ると、身近な地域から課題を見いだすことで、生徒の探究がより深まっていると感じます。毎年、異なる研究テーマが設定されており、気仙沼は学びの宝庫なのだ」と生徒も教師も実感しています（狩野校長）

2・3年次の探究学習は、1年次の地域社会研究を土台に、個人で取り組む。創造型の課



写真 学年発表会には、連携先の市役所などの関係者ら、大勢が来場。生徒たちは、それまでに学んだポスターセッションの技法を用いて、来場者の質疑にも臨機応変に対応していた。

題研究Ⅰ・Ⅱでは、SDGsの視点で地域の課題を設定して、その方策を探り、3年次にその成果を英語の論文にまとめ、ポスターセッションを行う。研究企画部長の小松代晃匡先生は、課題研究Ⅰ・Ⅱの指導方針を次のように語る。

「2・3年次は、大学の研究室とも連携して、より学術的な研究に取り組み、校外の発表会にも積極的に挑戦しています。地域の魅力も題材にしたスマホゲームの開発などを通じて地域活性化に取り組んだ19年度の2年生の2人が、『全国高校生マイプロジェクトアワード』（*2）の文部科学大臣賞を受賞するなど、成果も出ています」

生徒の活動に寄り添い、探究学習の指導のあり方を模索

18年度の気仙沼西高校との統合後、SGHの指定もあつて、学校の教育活動の軸として定着した探究学習だが、当初は、多くの教師が探究

学習の指導は未経験であり、職員会議で指導方針などを共有しても、「戸惑いや不安の声が多かった。そうした中で推進力となったのが、「分らないなら、生徒と一緒に学ぼう」という教師の姿勢だ。若手教師もベテラン教師も、生徒一人ひとりに向き合い、それぞれの状況に合わせた声かけや働きかけの内容と方法を考えた。そして徐々に探究学習の指導法を身につけていったと、進路指導部長の菅原裕行先生は振り返る。

「目の前の生徒を見て、『よい点に着目している』『こういう場面ですまざるのか』といった気づきを積み重ねるうちに、次第に機を捉えて生徒に声をかけられるようになりました。そうして引き出しが増えていくと、教師がどのように働きかければ、生徒からポジティブな反応が返ってくるのかが分かってきました。職員室では、各教師のそうした経験や学びを共有し、学校全体の財産としています」

評価の指針を明確に示したことも、指導の充実につながった。例えば、1年次の地域社会研究では、「各イベントでの評点」「研究活動a・bにおける自己評価と教師による評価」「学年発表会での全体評価」の3つの場面で、それぞれ評価の観点別に到達目標を示したルーブリックを作成した（図2）。それを生徒にも示し、自分で目標を設定して主体的に活動できるようにするとともに、自己評価の場を設けた。研究企画部の揚野耕平先生は、次のように説明する。

「段階的に到達目標を示したことは、自己

* 2 探究学習・マイプロジェクトに取り組んだ全国の高校生を対象に行われる学びの祭典。地域や学校、子どもや大人といった枠を超えて参加者が学び合う。

図2 1年次「地域社会研究」の「研究活動α・β」のルーブリック表（抜粋）

観点	5	4	3	2
課題設定 (a)	地域に関係のあるテーマを課題とし、問題の背景を総合的な視点で捉え、論点が明確である。	地域に関係のあるテーマを課題とし、問題の背景を部分的にしか捉えていないが、論点が明確である。	地域に関係のないテーマを課題とし、問題の背景を部分的にしか捉えていないが、論点が明確である。	地域に関係のないテーマを課題とし、問題の背景を調べておらず、論点が不明確である。
情報の内容 (a, b)	アンケートやインタビュー、フィールドワーク等から得られたオリジナルのデータも適切に処理・加工して使っている。	アンケートやインタビュー、フィールドワーク等から得られたオリジナルのデータを使っているが、処理・加工に不備が見られる。	他人が作成したデータを適切に選び、加工している。	他人が作成したデータを加工しているが、適切なデータではない。

評価の観点 a は、「地域課題を理解している。また、研究手法を身につけている（①知識・技能）」、b は、「批判的・科学的思考力を身につけている（②思考・判断・表現）」、c は、「主体的に解決しようとする態度を身につけている（③主体的に学習に取り組む態度）」としている。

* 学校資料を基に編集部で作成。「ルーブリック表」の全体は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp/>) からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」をご覧ください。

肯定感が低かった生徒にとっても、自分なりに努力し、少しでもレベルが上がることで自信を持つきっかけになっていました。一方で、自分たちだけでは探究を進められないグループには、参考となりそうな書籍やウェブサイトを紹介したり、気づきを促す投げかけをしたりするなど、教師が伴走することを心がけています。学年発表会後、『頑張つてよかったです』と、晴れやかな表情を見せてくれる生徒に、大きな成長を感じています」

生徒のそうした変化が、学校全体の雰囲気を変えていったという。

「当初、学年発表会の準備は、担当の教師だけで行っていました。が、次第にほかの教師も集まり、椅子を並べるなど、協力してくれるようになりまし。そうした変化にも、探究学習が学校全体の取り組みになっていることが表れていると思います」（鈴木先生）

主体的に行動する生徒たち 校内外で自主的な活動が活発に

探究学習に真剣に取り組んだ生徒には様々な変化が見られると、菅原先生は語る。

「探究学習で答えが1つではないテーマに向き合い、必死に情報を集め、考えをぶつけ合う経験を積むにつれ、『もつと知りたい』という意欲が高まり、『自分で行動を起こす』ことのやりがいを実感したのでしょう。大学についての情報収集を自ら行う生徒が増え、教科学習にも主体的に取り組むようになりました。また、志望校の入試で求められる力と自身の現状を捉えて、その差を埋めようと努力する姿もよく見られます。苦手の数学を頑張っている生徒の1人は、『探究学習での変容に比べたら大丈夫です』と笑っていました」

探究学習を通じて、大学で学びたい学問が決まったり、研究内容をアピールできる推薦・AO入試の受験を希望したりする生徒も増えています。その一方で、探究学習で積み重ねた経験が自

分の強みだと自覚できていない生徒もいる。

「入試前に自信を失い、相談にきた生徒に、探究学習の努力を振り返らせて励ますこともあります。面談以外にも、生徒が身につけた資質・能力を自覚できるような仕組みをつくるのが、今後の課題の1つです」（菅原先生）

生徒と地域とのかかわりも深まっている。18年度は、3年生の有志がクラウドファンディングで資金を集め、地域住民と交流イベントを実施。20年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休業中に、2・3年生の有志が地域のNPO法人と連携し、オンラインで探究学習の成果を発信する「バーチャル文化祭」を開催した。高瀬琢弥教頭は、自ら必要なことを考え、行動している生徒に頼もしさを感じている。

「新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、地域の祭りが中止になったと聞き、自分たちにできることはないかと、オンラインでの発信を模索している生徒もいます。生徒の主体的な活動が、校内外に活気を生んでいます」

新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休業が今後も懸念される中、同校はオンラインツールも活用しながら探究学習を進める考えだ。

「外部講師の講演などはオンラインで実施する予定ですが、対話や発表といったアウトプット活動は、実体験が一層大切になると考え、実施の方向で動いています。オンラインとオフラインの特性を見極めて使い分け、探究学習の充実に努めていきます」（揚野先生）

校内の教師同士による対話を通して、自校の指導ツールの改良を図る本コーナー。
今号は、北海道旭川東高校の、2年次の「総合的な探究の時間」で活用している
探究学習の計画書について検討した。

北海道旭川東高校

◎学校標語「シマレガンバレ」
「学校大和」を掲げ、校訓「生をよろこべ 矩にしたがえ 全力をつくせ」の下、品性と礼節を重んじながら自由を謳歌する校風を誇る。
「地域医療を支える人づくりプロジェクト」の医進類型指定校。

◎設立 1903 (明治 36) 年

◎形態 全日制・定時制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約 240 人

◎2020 年度入試合格実績 (現役のみ) 国公立大は、旭川医科大学、北海道大、東北大、東京工業大、京都大などに 152 人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大学、早稲田などに延べ 321 人が合格。

◎URL

<http://www.ah.hokkaido-c.ed.jp/>



教務部
中川 清文 なかがわ・きよふみ
教職歴 19 年。同校に赴任して 4 年目。保健体育科。「総合的な探究の時間」担当。



教務主任
柴田 朝幸 しばた・ともゆき
教職歴 12 年。同校に赴任して 6 年目。国語科。「総合的な探究の時間」担当。



進路指導主事
花尻 健明 はなじり・たけあき
教職歴 13 年。同校に赴任して 6 年目。数学科。2017 年から 3 回、本コーナーに登場している。

改良会議実施校

北海道 旭川東高校



Before

アカデメイア・プラン 2019

メンバー (リーダーの氏名に◎をつける)

姓	名	姓	名

1. 探究テーマ

2. テーマに関連する学習分野 (該当するものをすべてに○をつける)

国語・英語・数学・理科・社会・芸術・体育・保健・音楽・情報・経済・労働・職業・福祉・文化・環境・国際・地域・生活・キャリア・総合・探究・その他

3. 探究デザイン

(1) 探究の目的 (いざしに○をつける)

知識の獲得 態度の育成

(2) 探究の過程 (いざしに○をつける)

社会の発展 学問の発展 経済の発展

(3) 探究計画

(4) 探究の成果 (いざしに○をつける)

探究の成果 (いざしに○をつける)

今回、
改良するのは
ココ!

③の④ (どのようにして探究するのか)

④の⑤ (どのようにして探究するのか)

⑤の⑥ (どのようにして探究するのか)

⑥の⑦ (どのようにして探究するのか)

⑦の⑧ (どのようにして探究するのか)

⑧の⑨ (どのようにして探究するのか)

⑨の⑩ (どのようにして探究するのか)

⑩の⑪ (どのようにして探究するのか)

⑪の⑫ (どのようにして探究するのか)

⑫の⑬ (どのようにして探究するのか)

⑬の⑭ (どのようにして探究するのか)

⑭の⑮ (どのようにして探究するのか)

⑮の⑯ (どのようにして探究するのか)

⑯の⑰ (どのようにして探究するのか)

⑰の⑱ (どのようにして探究するのか)

⑱の⑲ (どのようにして探究するのか)

⑲の⑳ (どのようにして探究するのか)

㉑の㉒ (どのようにして探究するのか)

㉒の㉓ (どのようにして探究するのか)

㉓の㉔ (どのようにして探究するのか)

㉔の㉕ (どのようにして探究するのか)

㉕の㉖ (どのようにして探究するのか)

㉖の㉗ (どのようにして探究するのか)

㉗の㉘ (どのようにして探究するのか)

㉘の㉙ (どのようにして探究するのか)

㉙の㉚ (どのようにして探究するのか)

㉚の㉛ (どのようにして探究するのか)

㉛の㉜ (どのようにして探究するのか)

㉜の㉝ (どのようにして探究するのか)

㉝の㉞ (どのようにして探究するのか)

㉞の㉟ (どのようにして探究するのか)

㊱の㊲ (どのようにして探究するのか)

㊲の㊳ (どのようにして探究するのか)

㊳の㊴ (どのようにして探究するのか)

㊴の㊵ (どのようにして探究するのか)

㊵の㊶ (どのようにして探究するのか)

㊶の㊷ (どのようにして探究するのか)

㊷の㊸ (どのようにして探究するのか)

㊸の㊹ (どのようにして探究するのか)

㊹の㊺ (どのようにして探究するのか)

㊻の㊼ (どのようにして探究するのか)

㊼の㊽ (どのようにして探究するのか)

㊽の㊾ (どのようにして探究するのか)

㊾の㊿ (どのようにして探究するのか)

探究学習計画書は、探究学習に取り組むグループまたは個人単位で作成する。探究テーマと学問や教科学習とのつながり、探究活動によってもたらされる価値、そして中間発表までの活動計画を、アドバイザー役の教師のサポートを受けながら記入する。

課題

- 1 探究学習と大学の学問、高校で学ぶ教科学習とがつながっていることを実感させたい。
- 2 1 年次に学んだ探究学習の基礎的な方法や、思考ツールの活用が、2 年次の探究学習につながるようにしたい。

ねらい

2 年次の「総合的な探究の時間」である「アカデメイア探究」では、個人またはグループでテーマを設定した後、約 2 か月間の探究学習に取り組む。計画書を通して、探究学習の価値、学問や教科学習とのつながりを生徒に広く捉えさせたい。

2年生 探究学習計画書

After

改良ポイント

- 1 計画書作成時に考えた内容が、その後の探究学習の過程における教師やクラスメートとのやり取りを通じて、どのように深まっていったのかを記録させるようにする。
- 2 生徒が自身の探究学習の課題に気づき、思考ツールを使って問題を解決できるよう、教師のかかわり方を例示し、アドバイザー役の教師に共有する。

生徒用

1. 探究テーマと関連する学問

探究テーマ

関連に気づいた学問分野 (計画書作成時) | 関連に気づいた学問分野 (レポート作成時) | 関連に気づいた学問分野 (中間発表時)

(3) 探究計画

①目的 (どんな価値を提案するために探究を行うのか)

計画書作成時の考え

アドバイザーの先生との対話による深まりや気づき

クラスメートとの対話による深まりや気づき

レポート作成時の考え

計画書作成時の考えを、探究学習を進める過程での他者との対話を通じて得られた気づきを基に、生徒に更新させ、その足跡を記録させる。

教師用

■探究の深まりと広がりをもつ思考ツール活用例

探究の状況	生徒への声かけ	思考ツール例
- 分からないことをそのままにしておく - 自分が今持っている知識や考えの中だけで収束してしまう - 分からないことがあると挫折しそうになる	「何が分からないのか、具体的にどこが分からないかを深掘りしてみよう」 「分からないことがあったら、角度を変えて何度も考え直してみよう」 「仲間の力も借りて、いろいろな角度から考えてみると、ある時突破できるかも」	ブレインストーミング オズボーンのチェックリスト
- 試行錯誤をためらい、当たり障りのない展開で終わらせている - 失敗の痕跡が残らないノートを目標にしてしまい、今の時点での考えから抜け出せない - どこかで聞いてきたような「正解」をよく理解しないまま再現しようとする	「集めた情報を整理したり、分析したりする中で驚きはあったかな？」 「試行錯誤を経た探究の足跡を、先生に話すことはできる？」 「答えが分からないテーマについて探究しているドキドキ感を味わおう」	ロジックツリー KJ法

計画書で見取れる生徒の探究学習の課題と、1年次に学習した思考ツールが活用できる局面を対応させたガイドを作成する。



どのような対話を通じて改良できたのかは、次ページで!!



生徒にとって「発表」は確かに探究学習のゴールではありますが、実際には、発表を経てさらに深まったり、広がったりすることがあるはずです。計画書に、探究学習中や発表後の気づきや変化を記入させることで、探究はそれぞれの内面で続いているということを意識させたいと思いました。



教師がリードして立派な発表をつくり上げるのではなく、生徒の主体的な活動を重視して「大いなる不完全燃焼」を歓迎しようというのが、本校の探究学習における教師のスタンスです。生徒の探究がもっと深く、広くなるような、探究を終わらせない問いかけはどのようなものか、さらに考えていきたいです。



計画書に生徒の思考の変遷を書かせるようにしたことで、アドバイザーである私たちは、生徒に新しい気づきや考えの変化をもたらしたい気持ちがより高まると思います。教師が探究学習にどのようにかかわるのか、生徒に対してどんな役割を担うのか、計画書の改良によって明確になったように思います。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」をご覧ください。

実録

改良会議

先生方の
対話のダイジェスト他者とかかわる中で探究が深まり、
広がる経験を記録させることで、
生徒が自身の成長を実感

探究学習の壁を自覚させ、思考ツールにつなげる

荻原 計画書は、生徒に考えさせたい内容が多岐にわたっています。計画書の改良ポイントを明確にするため、先生方が探究学習において認識している問題を確認し、その問題は計画書をどのように改良すれば解決するのかを考えていきたいと思っています。

花尻 理想と現実のギャップを埋める「問題解決」と、新しい価値を提案する「価値創造」という、2つの社会貢献の視点から、生徒には自分の生き方を考えられるようになってほしいと思っています。そのため、「問題解決」「価値創造」という視点で自分の探究がどのように深まったのかを、もっと自覚できる取り組みにしていきたいです。そして、探究学習が大学の学問や高校の教科ともつながっていることにも気づいてほしいと思っています。

柴田 探究テーマをもっと深く、もっと多角的に見つめてほしいと思っています。生徒は探究テーマを設定する前に、思考ツールを習得するためのワークに取り組んでいますので、習得した思考ツールを実際の探究学習でもっと生かせるようになってもらい

たいとも思っています。

花尻 イメージマップやフィッシュボーンなどの思考ツールが、生徒の中では知識の範囲にとどまっていた、思考ツールを活用することで探究が深まっていくイメージが、十分持てないのかもしれない。

柴田 ただ、教師が生徒に「この思考ツールを使いなさい」と与えるのはよくない気がします。自分の探究を深めたり広げたりする上で、どんな壁に直面しているのか、その壁を打破するためにどんな思考ツールを使うとよいのか、生徒に模索させたいです。

中川 アドバイザー役の教師と語り合う中で、生徒が自分の探究の深まりや広がりを感じ、探究を進めていく手段として主体的に思考ツールを選択できれば、生徒は、他者との対話を通して自分が成長していることを実感できますよね。そのためには、アドバイザー役の教師が、生徒はどんな壁に直面しがちか、その際にどんな言葉で自覚を促すとよいかを整理しておくが必要だと思います。

荻原 私たち社会人も、仕事の中で思考ツールを使うことがあります、その前提として、どのような問題に直面しているのかに気づくことが必要です。



改良会議ファシリテーター

VIEW 21編集部
高領域担当

荻原香織

おきはら・かおり

今回は、編集部と学校をオンラインでつなげての改良会議となりました。進め方には不安がありました。指導ツールの改良という本題に入る前に、全員で探究学習の目標や、課題を目標合わせすることができたため、後半の会議がスムーズに進んだのだと思います。短時間でも対話の場を持つことの大切さを感じました。

改良会議を振り返って



今回の会議で、対話を通じて改善案が見えてくるプロセスを体験できました。自信を持って生徒に、「探究学習は、他者とのやり取りを通じて深まるものだ」と伝えたいと思います。



本質を見失わず、発想を広げる楽しさを生徒に味わわせるため、「多角的な突っ込み」をたくさんしていきたいです。教師同士でも、多角的な突っ込みを楽しんでいきたいと思っています。



探究学習にかかわるほど、その面白さと指導の難しさを実感させられます。高校在学中はもちろん、5年後、10年後も、その価値が生き続けるような活動にしていきたいです。



そうした気づきを促す教師の役割は重要ですね。
柴田 生徒に対する「探究突っ込みポイント」を、私たちがあらかじめ持つておくことで、生徒を適切な思考ツールの活用へと誘えそうです。

探究学習での気づきを長い時間軸で記録させる

中川 計画書を提出してから成果発表まで2か月程度と、本校の探究学習は短期集中型です。ただ、探究学習の中で気づいたことや生まれた疑問などが、時間の経過とともに具体化するケースもあると思います。例えば、探究テーマと教科とのつながりなどは、探究学習の最中はもちろん、成果発表の後になつて気づくことも多いのではないのでしょうか。そういったことを記録する機会も必要かもしれません。
柴田 昨年度、探究学習の成果発表を見たある先生が、「成果発表後の質疑応答を生かして、さらに探

究が続いていけば、深まりも広がりも増しそうです」と話していました。アドバイザー役の教師やクラスメートなどに向けたミニ発表と質疑応答の場を複数回つくり、そこでの気づきを記録させたいですね。
荻原 計画書に活動前の見通しだけでなく、活動中、活動後の思考の深まりやその変遷も記録させれば、ポートフォリオの機能も持たせられますね。
花尻 アドバイザー役の教師やクラスメートとのやり取りが、自分の探究学習にどのような影響を与えてきたのか、対話の足跡を把握することで、生徒は対話的な学びの価値を理解し、その後の自身の学び方を発展させていけるように思います。
中川 探究学習の成果は、日々の教科学習や進路選択の場面でも、生徒に実感させたいものです。生徒の興味・関心の深まりや広がりをキャッチして、それぞれの生徒にフィードバックするような声かけ、かわりが必要だと改めて思いました。

改良したいのに、どうすべきか分からない……

指導ツールを募集しています！

「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」では、取材にご協力いただける学校及び取材を検討させていただく「指導ツール」を募集しています。「自校で長年使っているツールを見直したい」「ツールのより効果的な活用法を検討したい」といった、課題意識をお持ちの学校のご応募をお待ちしております。

〈個人情報の取り扱いについて〉をご確認いただき、必要事項①～④をご入力の上、指導ツールを添付して下記のe-mailアドレスにご送信ください。

※送信前に一度、生徒情報が削除されているかご確認ください

- ①学校名・お名前
- ②分掌・ご教職歴
- ③ツールの内容（目的・活用時期・活用方法）
- ④ツールに対する課題意識、改善要望

view21_since-1975@mail.benesse.co.jp

〈個人情報の取り扱いについて〉 この「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」のツール募集でご提供いただく個人情報は、今後の企画を検討する目的で利用いたします。お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口（0120-924721、通話料無料、年末年始を除く、9時～21時）にて承ります。（株）ベネッセコーポレーション CPO（個人情報保護最高責任者）
上記をご承諾くださる方はご送信ください。

SDGsの 視点で見る 大学の学び



SDGsの達成に向けた取り組みや研究の視点で、大学の学びを紹介する本コーナー。
今号では、貧困の解消が目標の1と、誰もが健康的な毎日を送れるようにすることが目標の3に関する大学の学びを取り上げる。
まずは、それぞれの目標について、世界と日本の状況を解説した後、目標1は神戸大学、目標3は岡山大学の学びを紹介する。

解説



目標1

あらゆる場所の
あらゆる形態の貧困を終わらせる



解説



目標3

あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

世界の状況

絶対的貧困は減少したが、
紛争や感染症による懸念も

貧困の撲滅は、まさに普遍的な願いと言えるでしょう。貧困には大きく分けて絶対的貧困と相対的貧困があり、前者は国際的な貧困ラインと定義される、1日1・90ドル未満での生活を余儀なくされている人口の割合が指標となります。後者は、ある国での生活や文化の水準と比較して困窮した状態を指します。目標1

では、その両方の貧困に終止符を打つことを目指しています。

特に優先されるのは、食料や衣料品、医薬品など、生活に絶対に欠

かせない物の入手すらままならない困窮状態である絶対的貧困の解決です。開発途上国には、そのような極度の貧しさに苦しむ人々がいまだに多く存在するのが現実です。

これまでも、絶対的貧困をなくすために、ODA（政府開発援助）やNGO（非政府組織）などを通して、経済発展や社会インフラなどを支え

世界の状況

世界的に平均寿命が上昇
新規感染症で新たな課題も

健康的な毎日は、豊かな人生の土台となるものです。目標3では、あらゆる健康上の問題をなくすことを目指しています。主な指標には、乳幼児の死亡率や伝染病の感染者数、衛生環境、医療体制などに関する項目があります。2019年の国連の報告から世界の状況を見ると、乳幼児死亡率が低下し、平均寿命が伸び

るなど、目標の達成に向けて着実に前進しています。マラリアや結核HIVなど、既存の感染症についても、感染率は低下傾向にあります。

しかし、新型コロナウイルス感染症の発生により、新たな問題が浮き彫りになりました。日本を含め、多くの国が、今回のような新規の感染症の急速な拡大に十分対応できる医療体制になっていなかったことが露呈しました。医療資源の整備は、平時を基準としてよいのか、検討すべきかもしれません。加えて、気候変

* 1 所得格差を示す指標であり、完全な所得分配ができている場合は0となる。格差は0～1の間で示す。

る援助が続けられてきました。その結果、2019年の国連の報告を見ると、全世界での絶対的貧困は着実に減少傾向にあります。ただ、今回のような新型コロナウイルス感染症の拡大や紛争、災害などのクライシスが起こると、状況が逆戻りしてしまつことも忘れてはなりません。

日本の状況

格差問題の解決には、硬直した社会制度の打破が必要

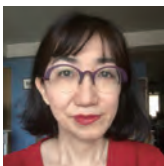
日本などの先進国では、絶対的貧困はほとんど見られなくなりましたが、相対的貧困は存在します。いわゆる格差や不平等の問題です。相対的貧困は、各国が様々な指標を用いて測定していますが、生活の豊かさとは個人の実感も関係するため、目標

設定は容易ではありません。近年は、日本でも、所得の不平等さを測るジニ係数(*1)などを指標として、「格差」の広がり指摘されています。その背景には、社会構造の変化や高齢化、非正規労働者の増加などがあると考えられます。

一方で、社会保障制度の見直しも進み、非正規労働者への被用者保険の適用拡大やセーフティネットの強化などにより、格差縮小が図られてきました。働き方改革など、生活のあり方を見直す動きも、状況の改善に一定の効果が期待できます。しかし、雇用市場や就労形態はまだ硬直的で、格差縮小を一層推し進めるためには、ワークシェアリングなど、より柔軟な働き方を実施したり、社会全体で多様性を受け入れる文化が醸成されたりする必要があります。高校時代に貧困問題に興味を持ったら、日本と世界の双方に目を向けてほしいと思います。比較することで見えてくることがあるはずです。

P.42〜43で、目標1の達成に向けた「神戸大学」の学びを紹介します。

解説者



神戸大学大学院
法学研究科教授
関根由紀
せきね・ゆき

専門分野は、社会保障法、EU法、ブリュッセル自由大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了。国際労働機関事務局本部法務官などを経て、2004年、神戸大学助教授、12年から現職。

動などにより、感染症のリスクが高まることも考えられます。世界は新たな脅威にさらされており、国際協力体制の構築は大きな課題です。

日本の状況

慢性疾患の生活支援やWell-beingにも目を向ける

目標3の日本の状況は、「国連ハイレベル政治フォーラム報告書」(*2)で報告されているように、乳幼児死亡率や医師密度、交通死亡率など、達成している指標も多く、おおむね優秀と評価されています。

そのため、日本では、独自の指標を設定するのがよいかもしれません。目を向けたいのは、慢性疾患への対応です。慢性疾患は、長期にわたって健康や生活に影響を及ぼしま

すが、治療法が明らかにされていない疾患が少なくありません。ただ、患者の活動困難な部分を補う方法は、科学技術を活用すれば開発可能であり、そうした支援は、本人や家族の主観的Well-being(*3)を高めるためにも重要です。日本は、その指標の評価が低く、諸外国よりも自殺率が高いことから、一人ひとりのWell-beingの向上が課題です。

そのように、日本は世界の問題解決に貢献しながら、自国の課題に向き合う、そのバランスが大事だと考えます。

高校生の皆さんには、日常で見つけた違和感を見過さず、その違和感はどうして生じたのか、自ら問い、答えを自ら調べ、探し、考えてほしいと思います。あふれる情報からまっとうな答えを探し、見つからなければ新たに本当の答えを創り出していく技を磨くことが、これから社会の問題と向き合い、建設的に乗り越えるための能力だと考えるからです。

P.44〜45で、目標3の達成に向けた「岡山大学」の学びを紹介します。

解説者



岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科教授、副理事
(SDGs推進担当)
狩野光伸
かの・みつぐ

専門分野は、医療科学。臨床・研究・教育に尽力した後、2012年から岡山大学教授。17年、副理事に就任し、学内のSDGsの取り組みを牽引。同大学の「第1回ジャパンSDGsアワード」受賞に貢献。

*2 国連では、「持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム」が開かれており、各国が自国のSDGsの取り組みについて報告する「自発的国家レビュー」が行われている。日本は、2017年にレビューを行い、「国連ハイレベル政治フォーラム報告書」はその報告書となる。 *3 自分自身で満足、良好、幸せなどと感じること。

大学の学び

深い議論を重ねる中で法学的思考を身につけ、 国内外の多様な課題にアプローチ 神戸大学 法学部 法律学科

法律や行政の側面から 貧困のない社会を目指す

神戸大学は、全学でSDGsの達成を目指す取り組みを推進している。その中で、法律や行政の側面から社会の広範な仕組みづくりにかわる法学部法律学科は、学問の特性上、SDGsの「目標1 貧困をなくそう」を始めとした、複数の目標に

私たちが紹介します



法学部法律学科
企業・行政コース4年
川島由紀
かわしま ゆき
兵庫県立尼崎稲園高校卒業。
金融業界への就職を志望。



法学部法律学科
政治・国際コース4年
西尾健吾
にしお けんご
大阪府立千里高校卒業。国
際機関への就職を志望。

対応した教育活動を展開している。

1・2年次は、法律や政治、国際関係などの基礎を幅広く学び、3年生進級時に司法、企業・行政、政治・国際の3コースから1つを選択する。法学部法律学科4年の西尾健吾さんは、高校の授業で世界の貧困問題に関心を持ち、同学科に入学した。「高校時代、貧困問題などの複雑で国際的な問題を学ぶためには、法学と国際関係学のどちらを専攻すべきか悩んでいたところ、本学科がその両方を学んだ上でコースを選択できることを知り、志望しました」

西尾さんは、2年次に、国際関係を理解し、分析する上で必要な概念やモデルを学ぶ「国際関係論基礎」を履修し、貧困問題の背景には内戦やテロ、移民問題といった根深い問題があることを知った。そこで、3

年生以降は政治・国際コースに進み、国際関係をより深く学んでいる。

社会保障制度の構造を学び、 多様なケースに基づき議論

貧困問題にかかわりの深い法分野の1つに、保障の必要な人への給付や支援に関連する制度設計・運用にかかわる社会保障法がある。

同学科の2・4年生向けに根拠を紀教授が開講している「社会保障法」では、医療保険や公的年金、労働保険、介護保険などにかかわる法律を取り上げて社会保障の各制度の基本的構造と考え方の習得を目指す（目標1）。そして、同じく根拠教授が担当する「社会保障法演習」では、それらの知識を土台に設定されたテーマに関して、学生が個々に調

査を行い、成果や提案の発表をした上で、学生間の質疑応答や討論により、考察を深める。

同学科4年の川島由紀さんは、実生活に関係の深い労働法などの法律を学びたいと考え、3年次には企業・行政コースに進んだ。3年次後期に「社会保障法演習」を履修し、外国人と日本の社会保障制度の関係について調査した。

「私が担当したテーマの1つが、非定住外国人への生活保護の適用を認めるべきかというものでした。最初は認めないのが自然だと思いましたが、過去の判例の調査や議論を通して、定住しているか否かにかかわらず、どのような状況に置かれた人にも生きる権利が保障されるべきだと考えるようになりました（目標10）。同じ法律の条文に対する見解

この学びに関する 他の SDGsの目標



が、学生によって異なる点が面白く、法学の学びでは物事を多面的に捉えることが大切だと実感しました」(川島さん)

そのように、同学科では、多くの演習科目で議論中心の学びを取り入れており、法学を駆使して問題提起やよりよい世界をつくるための提案ができる力を育成している。

現在の川島さんの関心は、政府がすべての人に健康で文化的な最低限度の生活を保障する収入を無条件に支給する仕組みである、ベーシックインカム制度(目標3)へと広がった。「日本の社会保障法を学ぶ中で、海外の社会保障についても興味を持つようになりました。関根教授はその分野にも詳しいので、4年次後期に、関連する演習科目を履修したいと考えています」(川島さん)

留学先で海外の事情を学び、 貧困撲滅に向けた提言を作成

同学科は、国際教育にも力を注いでいる。西尾さんは、2年生の時にグローバル社会で活躍する人材育成を目的とした同大学の「EUエキスパート人材養成プログラム(※)」

に参加。同プログラムの一環として実施された2週間のヨーロッパ研修では(写真1)、国際労働機関(以下、ILO)研修センターを訪れた。その時の感想を西尾さんは、次のように話す。

「ILOでは、児童労働の廃止や安全な労働の推進などを広めることで、ディーセント・ワーク(decent work、働きがいのある、人間らしい仕事)をすべての人に実現する(目標8)取り組みを行っていることを知り、感銘を受けました。それまでは貧困問題を広く学びたいと考えていましたが、目標8全体の観点からも貧困について深めたいと考えるようになりました」(西尾さん)

さらに視野を広げて学ぶために、西尾さんは、3年次9月から3月まで、同大学の交換留学制度を利用してイギリスのエセックス大学に留学し、国際関係学を学んだ。

中でも関心を持ったのが、アフリカの発展に焦点をあて、その背景にある貧困問題などについて学習する授業だ。西尾さんは、アフリカ地域において男女平等の教育やディーセント・ワークを普及させ、貧困の連

鎖を断ち切る提言を、英語による論文にまとめた(写真2)。

「卒業までに、自分の提言の妥当性を検証できるよう、女性の地位向上と貧困の関係をテーマに研究を進めています。留学を通して、日本とは異なる状況を肌で感じ、また、各国の社会制度や法律にも触れ、世界は多くの課題を抱えていることを、留学前以上に痛感しました。将来は、国際機関への就職や国際ボランティアを視野に入れて活動していきたいと考えています」(西尾さん)



写真1 西尾さんが参加したヨーロッパ研修では、ILO訪問のほか、ベルギーのルーヴェン大学法学部を訪問し、ゼミで日本の雇用保険について発表した。

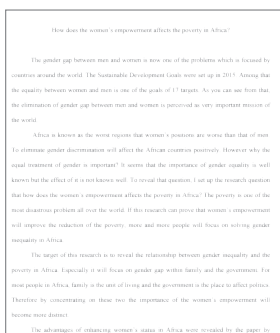


写真2 家庭内の男女平等が家族単位での貧困の削減につながると仮説を立て、提言した。

学びとSDGs

現実の状況を多角的に捉えて
解決策を導く思考力を育む



法学研究科
教授
関根由紀
せきね ゆき

法学は暗記事項が多い学問と思われるがちですが、実は、考え方やスキルを身につけることが重要な学問です。法律は多様な解釈が可能のため、法学は過去の判例と比較しながら自分の考えを生み出し、他の学生と議論して高め合い、学ぶものだからです。そうした学びを通じて培った法学的な思考力は、現実の状況を多角的に捉えて問題提起をしたり、よりよい方策を提案したりする力につながります。そのため、私の授業や研究室では多様な意見に耳を傾けることに重きを置き、留学生や海外の国際機関から招いた講師との意見交換などを充実させています。

卒業後の進路は、法律専門職のほか、国際機関への就職や公務員、民間企業など、多様です。これからの社会では、どのような仕事をするとしても、世界が目指す社会の方向性として、SDGsの観点を持つことは欠かせません。授業では、法学の学びとSDGsを関連づける発信を積極的に行い、知識やスキル、そして、世界に貢献するビジョンを備えた学生の育成を目指しています。

* EUの社会文化・法・政治・経済的側面について専門的かつ分野横断的に研究する能力や、高度な語学力の習得を目指すプログラム。国際文化・国際人間科学・法・経済の学部・研究科の学生が対象。



大学の学び

幅広い工学の知識と技能を生かし、 健康や福祉に役立つ技術の開発を目指す 岡山大学 工学部 情報系学科 ヒューマンセンタリック情報処理研究室

高度情報化社会を担う 技術者を育成

岡山大学工学部情報系学科では、高度情報化社会を担う技術者を育成している。同学科を卒業し、現在、大学院ヘルスシステム統合科学研究

私たちが紹介します



小林 誠
こばやし・まこと
大学院ヘルスシステム統合科学研究科 ヒューマンセンタリック情報処理研究室
博士前期課程2年



林 倖生
はやし・こうせい
大学院ヘルスシステム統合科学研究科 ヒューマンセンタリック情報処理研究室
博士前期課程1年

科（*1）博士前期課程1年の林倖生さんは、入学の動機を次のように話す。

「高校時代にプログラミングを独学で学び、ゲームをつくっていました。そうした技術の仕組みに興味を持ち、自分も人の役に立つようなシステムをつくりたいと思うようになりました」

1年次は、教養教育科目に加え、広く工学を理解するための全学科共通の専門基礎科目を学ぶ。2年次の3学期からは選択したコース（*2）に基づき、学科専門科目を履修。3年次は、より専門的な科目や課題解決型の科目が設置されている。林さんと同じ研究科で博士前期課程2年の小林誠さんは、同大学が学部横断的に設置する「グローバル人材育成特別コース」も履修し、SDGsに

ついて学んだ。

「工学を社会で役立てるには、持続可能性に目を向け、より広い視野で学ぶ必要があると感じるとともに、社会貢献度の高いシステムの開発に携わりたいと考えるようになりました」（小林さん）

歩行データを分析し、 パーキンソン病の重症度を診断

4年次には研究室に所属し、ゼミナールと卒業研究に取り組む。林さんは、阿部匡伸教授のヒューマンセンタリック情報処理研究室に入った。

「3年次までに、プログラミングや情報処理システムなどを幅広く学ぶうちに、情報技術の土台となるアルゴリズムを深めるよりも、情報技

術を活用する面で人の役に立つ研究をしたいと考えるようになりました」（林さん）

同研究室では、コンピュータで人間の感情を表現した音声を出力する音声信号処理や、人間の行動をデジタルデータで記録するライフログなど、人間の特徴を工学的に捉え、日常生活を豊かにするための研究を行っている。

林さんが、4年次から取り組んでいるのが、パーキンソン病の重症度を診断するために、インソール型圧力センサーを用いて歩行データを分析するという研究だ（図1）。

「パーキンソン病には、運動障害が出現するという特徴があります。医師が患者の歩行の様子を時間をかけて確認し、重症度を診断できればよいのですが、それでは医師への負

この学びに関する 他の SDGsの目標



10 人や国の不平等をなくそう



8 働きがいも
経済成長も

* 1 工学・医歯薬学・保健学・人文社会学などの専門分野の垣根を超えた学際的な教育・研究を行う。

* 2 同学科には、計算機工学コースと知能ソフトウェアコースがある。

**コミュニケーションの
不平等をなくす研究を行う**

小林さんも4年次から同研究室に入り、医工連携の取り組みに関心が高まったことから、大学院に進学した。現在は、舌の摘出で発話が困難になった人のための会話支援システ

担が大きすぎます。そこで、診断を支援するツールを開発して、医療に貢献したいと思いました(目標3) (林さん)

図1 インソール型圧力センサーによる歩行データの分析

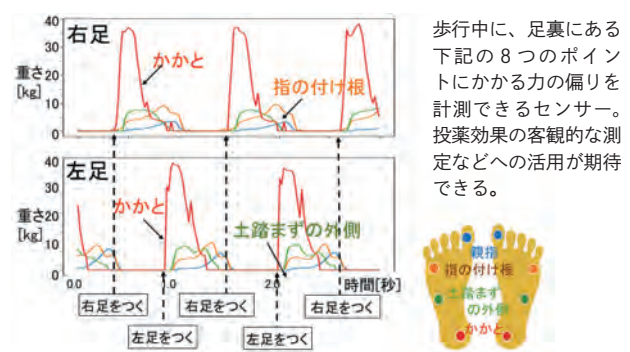
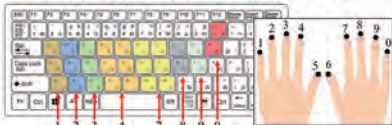


図2 感圧センサーを用いたウェアラブル入力デバイスの開発



◆ 指の割り当て

- 各指に複数のアルファベットを割り当て
- 左手親指(5): 全消去, 右手親指(6): Enterキー



例「おはよう」→「9 7 1 7 9 7」

両手の各指に数字を割り当て、指先の連続する動きから一連の指の動きが示すアルファベットを推定して言葉に置き換えた上で、音声に変換する。研究は小林さんを含む研究室の2人で担当し、小林さんは入力デバイスの開発、もう1人は指から得られる入力情報を利用して、言葉や文章を推定する翻訳システムの開発を担当している。

ム(図2)の開発を進めている。それは、感圧センサーがついた手袋型のウェアラブル入力デバイスを装着し、太ももなどをタップすると、スピーカーから音声が出力される仕組みだ。同システムは、発話が困難な人が場所・場面を選ばずに利用できる利点があり(目標8)、コミュニケーションにおける不平等をなくすること(目標10)を目指している。

「入力デバイスの製作には電気回路の知識が必要でしたが、それまで学んでいなかった分野だったため、電気通信系学科の友人にも協力してもらい、回路を完成させました」(小林さん)

実証実験では、入力デバイスのセンサーが小さく、反応が悪いことがあ

ある、コードが長く、1人では装着しにくいといった課題も明らかになった。また、研究室やゼミでの発表で、先輩から受けたアドバイスを、研究を深めるヒントになったと言う。

「定期的の実験を行い、入力速度を評価したらどうかと助言をもらいました。より速度の速いシステムとしてアピールできれば、実用化に近づくはず。研究成果の見せ方をより工夫します」(小林さん)

小林さんは、大学院修了後はシステムエンジニアとして、情報技術を幅広い分野で生かせる企業に就職予定だと言う。林さんは、大学院で研究を続け、修了後は情報技術を社会貢献に役立てる仕事に就きたいと考えている。

学びとSDGs

SDGsの達成に貢献する人材に



工学部長
岡山大学 工学部 情報系学科
ヒューマンセントリック情報処理研究室 教授
阿部 匡伸
あべ・まさのぶ

私の研究室では、人間がより心地よく豊かな生活が送れることを目指し、医学など、他の学問と連携して目標3の達成に貢献する研究をしています。

研究で大事なものは、未知の問題に対して、試行錯誤しながらその解決法を見いだし、自ら未来を切り拓いていく力です。そうした力を高める上で、学生時代からSDGsをテーマにした課題解決型学習に取り組むことは、非常に有効です。取り組みの過程で、自分は社会で何ができるのかを考え、そこで気づいた自分の存在価値は、研究を深める上で、重要な指針となります。

2021年4月に新生「工学部」を設置

本学部は、2021年4月に環境理工学部と統合する予定です。世界の課題に幅広く目を向けるために、「SDGs関連科目」と「数理データサイエンス科目」を必修とし、広く工学の基礎を学べるのが特徴です。そして、「Society5.0」の実現を通してSDGsに貢献する人材の育成をさらに推進していきます。

若手教師・教育創造MTG^{ミーティング}

第1回オンラインミーティング・リポート

意欲あふれる16人の若手が、 協働的に学びを深める！

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月から多くの学校が臨時休業となり、現場の教師は、同僚との対話の場が十分に得られない状態が続いた。そうした中、本誌の前号で告知した「若手教師・教育創造 MTG」の第1回が4月下旬、オンラインで開催され、次代を担う全国の若手教師 16 人（公立高校教師 14 人、私立高校教師 2 人）が、関心のあるテーマについて語り合った。

まずは、お互いの課題感や置かれている状況を知る

16人のメンバーが初めて集った今回のオンラインミーティングは、メンバー一人ひとりの自己紹介から始まった。臨時休業が続く中、オンライン指導の校内研修会を経て授業動画を作成したり、担任クラスの生徒に電話をかけて様子を聞いたりするなど、それぞれが今できることを模索し、取り組む姿が語られた。

今回、メンバーは、「全国の若手教師と話し合ってみよう課題」を、VIEW21編集部が準備したチャットツールで事前に伝え合い、オンラインミーティングでは、その内容を踏まえて、「オンライン授業」「地域と連携した探究学習」「進路指導（体制づくり、ポートフォリオの活用など）」の3カテゴリーで具体的な意見交換を行った。

「オンライン授業」については、「知識の習得だけでなく、生徒に気づきの感動やその共有を、オンライン授業の中ではどうすれば保障できるか」といった、臨時休業下の率直な問題提起がされた。既にオンライン授業の実践を重ねるメンバーからは、「大

人数でのオンライン授業では、自分の考えや思いを率直に話づらい生徒もいる。オンライン会議ツールの中には、少人数に分けたグループ活動が可能なのがあり、まずは少人数で意見交換をしてから、全体の活動に移ると、意見を言いやすくなると思う」などのアイデアが出された。

「地域と連携した探究学習」については、「調べ学習で終わらせず、その地域での自分のあり方・生き方まで探究学習を深めるには」「地域の課題に興味を持てず、別のテーマで取り組みたい生徒がいたらどう対応するか」など、探究学習の本質にかかわるような課題が共有された。そして、「進路指導」では、「教師の多忙化が進む中で、進路指導の体系化や、教師、生徒を巻き込んだ指導の目線合わせの難しさに悩んでいる」といった声に対して、「ポートフォリオを単なる活動の記録箱とするのではなく、そこから自分と大学、自分と社会の接点が深まった部分を生徒に抽出させていくことで、生徒の進路観がどのように深まったかについて、教師の指導の目線合わせが進んでいく」といった、自校の実践を踏まえた助言も見られた。

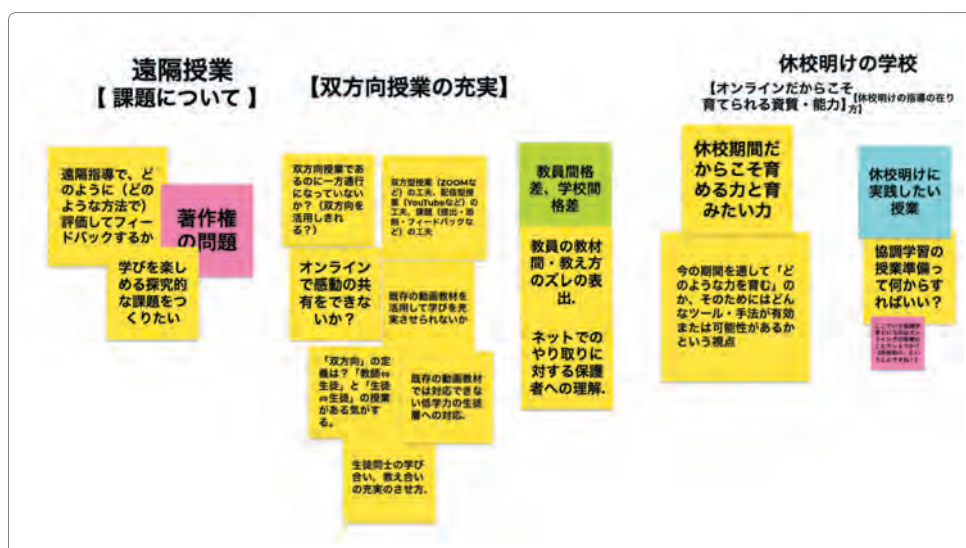


オンライン指導の情報交換や 自主的な対話が始まる

メンバーがお互いを知ることが最大の目標だった今回のオンラインミーティング。約2時間の対話の終

了時には、「いろいろな先生の話を知ること、興味・関心が広がった気がする。この場を活用して多くのことを積極的に学んでいきたい」「全国の先生方とオンラインで情報共有ができるのは、予測不可能な状況が

続く今、大きなメリットだと感じた」といった感想が上がった。
オンラインミーティングの開催と並行して、メンバーが自由に交流できる場としてVIEW21編集部が準備したチャットツール上に早速、多



メンバー主催の 自主的なオンライン対話で出された 探究学習の課題

- ✓ 高校生向けのオンライン探究教材プラットフォームの作成
- ✓ 探究学習における教師のチーム化（どのようにほかの教師を巻き込むか）
- ✓ 探究学習の評価（ルーブリックの作成、キャリア・パスポートの活用、外部評価導入）
- ✓ SDGs と生徒の興味・関心の接続
- ✓ 臨時休業時に実践可能な探究活動のアイデア
- ✓ 探究学習における地域人材活用（地域との関係づくり）
- ✓ 生徒の探究学習を深める教師のかかわり方

写真上／全国の16人の若手教師とVIEW21編集部による第1回ミーティングは、オンライン会議ツールを使って開催された。
写真下／ミーティング終了後、メンバーが授業実践に関する課題をオンライン上でブレインストーミングしたもの。

くのメンバーが関心を寄せる「授業実践」「探究学習」「進路指導」の3つのチャネルが設けられ、自校の取り組みの紹介や指導ツールの共有などが行われた。さらに、オンライン上の仮想ホワイトボードを活用した授業実践に関する課題の洗い出し（写真下）や、探究学習に関するメンバー主催のオンライン対話など、主体的な活動が続いている。
第2回オンラインミーティングでは、メンバー共通の課題や具体的な方策について、より深めていく予定だ。

テーマ

資質・能力の育成に向けた、 ペーパーテスト改善と多面的評価

はじめに
資質・能力の3つの柱を
育成・評価するために

ベネッセ教育情報センターは、新学習指導要領で重要視されている資質・能力の育成と評価について、教育現場での取り組み状況と先生方が抱えている課題感を調査した（図1参照）。育てたい生徒像や資質・能力の設定・検討準備は進んでいる一方、「学びに向かう力の育成と評価」「思考力・判断力・表現力を評価するための問題作成」の課題感が高いままであることが分かった。今後指導要録において観点別学習状況の評価の記載が求められるようになり、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を組織的に育成・評価する取り組みがより重要視される中、育てたい資質・能力を、各教科の特性を踏まえ、学校全体でどのように指導・評価していくのか。

今回は、自校で育てたい資質・能力を踏まえ、各教科等で、それぞれ思考力・判断力・表現力の定義を策定し、ペーパーテストを含めた多面的評価に学校全体で取り組む広島県立呉三津田高校を紹介する。

図1 新課程に向けての課題感と取り組み状況

	年度	新課程に向けての課題感				新課程に向けての取り組み状況				
		特に課題に感じる	課題に感じる	あまり課題に感じない	課題はない	組織的な取り組み	多くの先生の取り組み	ごく一部の先生の取り組み	未着手	不明
自校で育てたい 資質・能力の設定	2018	27%	49%	19%	5%	30%	14%	30%	23%	4%
	2019	20%	48%	26%	6%	39%	11%	26%	19%	6%
	2020	17%	51%	25%	6%	48%	16%	24%	9%	3%
カリキュラム・マネジメント の視点による指導計画・単 元計画	2018	28%	55%	15%	2%	23%	13%	39%	23%	3%
	2019	21%	57%	19%	2%	27%	13%	34%	21%	6%
	2020	19%	56%	23%	2%	30%	16%	33%	15%	5%
「高校生のための学びの基 礎診断」などの外部アセス メントを活用した指導改善	2018	19%	58%	22%	2%	11%	20%	41%	21%	6%
	2019	11%	48%	36%	6%	25%	10%	28%	32%	5%
	2020	8%	43%	43%	7%	31%	14%	26%	25%	5%
思考力・判断力・表現力を 評価するための問題作成	2018	30%	56%	13%	1%	10%	19%	47%	19%	4%
	2019	29%	59%	12%	1%	13%	26%	49%	9%	3%
	2020	23%	59%	16%	1%	14%	33%	43%	6%	3%
学びに向かう力の育成と評 価	2018	25%	59%	15%	1%	11%	22%	39%	22%	6%
	2019	25%	59%	15%	1%	13%	21%	44%	17%	6%
	2020	25%	59%	14%	1%	14%	27%	39%	13%	6%
多様な活動履歴の蓄積 (ポートフォリオの活用)	2018	45%	42%	11%	2%	18%	8%	28%	44%	2%
	2019	31%	51%	17%	2%	40%	14%	36%	10%	1%
	2020	13%	53%	30%	4%	44%	19%	26%	10%	2%
各教科の観点別学習状況 の評価の導入・実践	2018									
	2019									
	2020	14%	49%	33%	4%	26%	17%	26%	23%	7%

出典／2020年3月実施 ベネッセ教育情報センター「学校の教育・入試改革への対応状況と意識調査」

実践事例

ペーパーテスト改善で、 思考力を問い、学びを促す授業へ

広島県立呉三津田高校

広島県立呉三津田高校では、2012年度より、生徒の思考力を育成するためにペーパーテストの改善を進めている。学校として育成を目指す資質・能力を基に、各教科で思考力を定義。その上で、現在、定期考査では、思考力を測る問題を必ず1題は出題することとしている(図2)。同校のペーパーテスト改善とその先にある授業改善について話を聞いた。

Q1 一部の教師の取り組みになりがちな、
思考力・判断力・表現力の育成を
どのように学校全体に広げたのか？

A1 定期考査で思考力を測る問題を出すことで、
日々の授業が変わり、思考力の育成が共通認識となる

岡崎先生 思考力の育成は生徒の進路実現を支援する上で重要であるという認識の下、全校的な取り組みとして、12年度から思考力を測る問題を定期考査に入れています。本校の生徒に必要な思考力とはどのようなものかを明らかにするため、まずは

各教科で、「本校の生徒が頭をひねる問題を作ってみよう」と、作問をスタートしました。そして、実際に作った問題を基に、「この問題ではどんな力を測れるのだろうか」と、さらに教科団で議論しました。そうして2年かけて、各教科で思考力の定

義を固めていきました。
大林校長 本校は以前から、実技教科を含む全教科の定期考査で論述問題を出すのが通例であるなど、身につけた知識を断片化したまま生徒の中にとどめておいてはいけないという共通理解が教員間にありました。その上で、思考力の育成に学校全体として取り組むようになったのは、定義した思考力を測れるように、定期考査を変えたからだと思っています。定期考査を変えれば、先生方の日々の授業も変わります。その結果、各教科の思考力の定義が、生徒の状況を踏まえて、毎年アップデートされるほど、思考力の育成が全教科団に浸透したのだと思います。



校長
大林秀則
おおばよし・ひでのり
教職歴36年。同校に赴任して2年目。



主幹教諭
岡崎友一
おかざき・ともかず
教職歴25年。同校に赴任して15年目。英語科。



教務主任
川本啓正
かわもと・よしまさ
教職歴10年。同校に赴任して7年目。地歴公民科。

広島県立呉三津田高校

◎「質実剛健」を校訓とし、地域、日本世界のリーダーとなる人材の育成を目指している。特に課題発見・解決型学習に力を入れ、「実践力」を育む教育を行っている。

◎設立 1906(明治39)年

◎形態 全日制・定時制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約200人

◎2020年度入試合格実績(現役のみ)

国公立大は、筑波大、京都大、大阪大、神戸大、

広島大、九州大などに122人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、

立命館大などに456人が合格。

◎URL <http://www.kuremitsuta-hiroshima-ced.jp>

図2 呉三津田高校の定期考査の構成(例)

知識・技能
50%

思考力・判断力
・表現力
50%

思考力・判断力・表現力を測る問題の10%は、正解が1つではない問題とし、段階別目標標準拠型評価を行う

※教科等により割合に差はあるが、このような構成例を基準としている。
*学校提供資料を基に編集部で作成。

Q2 思考力を測る問題を作問する力を どのようにして高めていくか？

A2 教科、さらに学校全体で「良問」について話し合い、 生徒が思考力を発揮する場面を日々の授業につくる

川本先生 本校に赴任した当初は、

思考力を測る問題を作成するのに苦
勞しました。教科書の内容を論述さ
せる問題であればすぐに作成でき
るのですが、それでは知識を問うて
いるに過ぎません。断片的な知識を体
系化して答える問題がどのようなも
のか、教科団の先生方との話し合い
を通して深く理解できるようになっ
たと思います。

岡崎先生 本校のサーバーには、過

去の定期考査の問題が収められてい
ますので、先生方は過去の問題も参
考にしながら、思考力を測る問題を
練り上げています。そして、各教科
会でお互いが作っている問題を共有
しながら、教科団として絶えず作問
力を高めているのが実情です。

大林校長 本校では、定期考査の後
で、各教科から思考力を測る「良問」
を1問選び、教科を超えて共有して

います。「思考力の育成」を切り口に、
すべての教師がお互いの学力観を知
り、また、良問を作る同僚を尊敬し
合うことができる、素晴らしい場だ
と思います。

川本先生 思考力を測る問題が作れ
るようになることと、思考力を育
成する授業ができることは一体であ
ると思います。本校の授業評価アン
ケートでは、生徒に「学習のねらい
に沿って、授業で求められている思
考力を発揮する場面があるか」「こ
の授業は、もつと学習したくなるよ
う、興味・関心・意欲を湧かせるこ
れると思うか」を聞きます。生徒の
授業の捉え方、教師の授業のつくり
方も、当然変わってきます。私も世
界史の授業で使用するプリントの中
に、「この出来事はA国の立場から
どう評価するか」など、思考を深め
る問いを盛り込んでいます。

図3 地理歴史科・地理Bにおける思考力を測る問題（2学年2学期中間考査）

思考力の定義

社会的事象の持つ意味や事象間の関係性などについて、
相対化した知識や概念、資料を根拠に多角的・論理的に説明する力

授業における言語活動例（キークエスチョン）

なぜボツワナでは経済の多角化が進まないのか

問題

地理好きの裕樹くんはいつも暇があれば、『地理統計』
を読んでいます。巻末のボツワナの欄を読んでいると、
政治・経済の項目に、「畜産主体の農業国だったが、ダイ
ヤモンドの採掘により経済が発展した。輸出品はダイヤ
モンド、銅、ニッケル等。現在経済の多角化を進めている。」
と書いてありました。これを読んでボツワナに関心を持っ
た裕樹くんは、ボツワナの貿易品を調べてみました。調
べた結果、輸出品の81.8%（2015年）がダイヤモンド
であることがわかりました。その事実を知った裕樹くん
が、あなたのところにやって来てこう言いました。

「なぜボツワナって経済の多角化を進めているのに、モ
ノカルチャー経済から脱出できていないの？」

次の資料を活用し、裕樹くんの質問に答えなさい。

採点基準

4	途上国が経済の多角化を進める方法として、外国資本の導入があることに気付き、それが進まない3つの要因について、提示された資料のすべてを用いて論理的に述べている。
3	途上国が経済の多角化を進める方法としての外国資本の導入について言及していない、または海外資本の導入が進まない要因を2つしか述べられていない。
2	途上国が経済の多角化を進める方法としての外国資本の導入について言及せず、海外資本の導入が進まない要因を2つしか述べていない。または、途上国が経済の多角化を進める方法としての外国資本の導入について言及しているが、海外資本の導入が進まない要因を1つしか述べていない。
1	途上国が経済の多角化を進める方法としての外国資本の導入について言及せず、海外資本の導入が進まない要因を1つしか述べていない。または、途上国が経済の多角化を進める方法としての外国資本の導入について言及しているが、海外資本の導入が進まない要因が述べられていない。
0	無答もしくは誤答

*学校提供資料を基に編集部で作成。

獲得した知識を、時代や地域
を超えて相対化させる見方・
考え方を問う探究的な問題

発展途上国の中には工業化を進めるため、輸出加工区などを設置して「輸出指向型工業」を進めているところがある。工業化の進む中国やタイなどはその例である。



アフリカにおける1人当たりGNI（国民総所得）ランキング（ドル）（2015年）

1	セーシェル（14,760）
2	モーリシャス（9,610）
3	ガボン（9,210）
4	ボツワナ（6,510）
5	南アフリカ共和国（6,050）

アフリカのおもな国の人口（万人）（2015年）

☆	エジプト	…	8,895
☆	ガーナ	…	2,767
☆	ケニア	…	4,550
☆	ボツワナ	…	219
☆	ナイジェリア	…	16,472

お知らせ

『VIEW21』高校版4月号にてご案内いたしましたWebセミナー「生徒の前向きな学びを引き出す指導デザイン」は2020年7月3日開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、実施を延期する運びとなりました。詳細が決まり次第、『ハイスクールオンライン』の「入試改革/新課程ページ」にてお知らせいたします。

Q3 思考力の評価の基準はどのように策定し、生徒にフィードバックしているか？

A3 ルーブリックを教師・生徒が共有し、思考力を育む「学び方」を生徒に語りかける

川本先生 各教科のシラバスには4観点の評価の割合や方法を明記し、思考力を始めとする資質・能力に関するルーブリックをシラバスとともに生徒に配布して、授業の振り返りなどに活用させています。生徒の振り返りを分析し、問いを立てる力に課題意識を持った先生が、高次問いを立てる力を育むように授業展開を改善したケースもあります。

岡崎先生 シラバスで示しているルーブリックは、定期考査の評価基準にも生かされます。定期考査の前には、思考力を測る問題について評価基準を作成して、それまでの授業

での理解度なども踏まえて教科団ですり合わせをします。それでも、答案を実際に採点する中では、評価基準を見直し、採点をし直すこともあります。これからの大学入試に鑑みると、生徒のために取り組むべきことだと思っています。

川本先生 定期考査の返却時の生徒への声かけも変わりました。「教科書では別のページに載る事象のつながりを定期考査で問うたように、今後の授業でも知識の体系化を意識して学んでほしい」などと、生徒に学び方について語りかけることが多くなったと思います。

図4 理科・生物における思考力を測る問題（3学年2学期中間考査）

思考力の定義

自走できる学びを目指し、既知の科学的原理・法則を十分に活用するとともに、仲間と協働して未知の科学現象に果敢に挑む力

授業における言語活動例（キークエスション）

『種』の定義に基づき、かつ種分化の過程（進化の過程）を考慮に入れて類似した2つの生き物が別種であることを証明してみよう

問題

系統分類の考え方では祖先から受け継がれてきた原始形質と種分化によって新たに生まれた派生形質とを区別して考える。派生形質の共通性と相違性を整理することで系統分類が行われる。新たな派生形質が遺伝的に固定されたものであればその形質を持つ生物は新種の可能性が高まる。

また、「種」とは「共通した形態的・生理的な特徴を持つ個体の集まりで、同種内では自然状態での交配が可能であり生殖能力を持つ子孫を作ることができる。」と定義されている。

さらに「ハーディ・ワインベルグ」の法則が適用できるメンデル集団では代を重ねても遺伝子頻度は変化せず進化が起こらないことが知られている。

黒蜜田高校の生物部の行信君は学校の近くを流れる六合川で採集したアシハラガニの中に少し変わったカニ（X）が混じっていることを発見した。ネットや図鑑で検索したところ、どこにも該当する種類は見つからなかった。

（問）このカニXがアシハラガニから種分化によって生まれた別種であることを証明するための具体的な手立てについてリード文を参考にして3つ挙げるとともに、どのような結果になれば別種と判断できるかその根拠を簡潔に記述せよ。

採点基準

■手立てについて（3点）

配点	1点	2点	3点
採点基準	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち1つを解答している	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち2つを解答している	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち3つを解答している

■根拠について（3つの手立てに対応して根拠となる事項が解答されている。）

配点	1点	2点	3点
採点基準	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち1つを解答している	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち2つを解答している	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち3つを解答している

*学校提供資料を基に編集部で作成。

研究場面を想定し、様々な手法でアプローチする科学的な見方・考え方を問う探究的な問題

より詳しい内容は、

『ハイスクールオンライン』でお届けします！



動画解説



事例・解説

広島県立呉三津田高校の思考力を測る問題、採点基準等を掲載
横浜国立大学名誉教授・高木展郎先生による「新課程の意味・全体像が分かる！」
カリマネ・ブランドデザイン・指導計画・学習評価の実践ポイント満載

一疑問や課題を解決！実践につながる！

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

『ハイスクールオンライン』トップページ＞入試改革／新課程 からアクセス

6月下旬
リリース予定

2020年4月号へのご意見

自分自身の行動を考える参考になった

最近、生徒の意思決定力が乏しいと感じる。他者の指示に従うことしかしない生徒を見ていると、自分のことをもっとよく考えてほしいと思う。自己のあり方や生き方を考えることは、そういうことにつながるのではないかと。学校再開後に向けて、自分が取り組むべきことをいろいろ考えていたが、4月号の特集はそんな自分に大いに参考になる内容だった。 静岡県・私立沼津中央高校 後藤松太郎

対話こそが、自分らしさに気づく方法

4月号の特集に掲載された慶應義塾大学の前野隆司教授の記事は、Well-beingという視点、幸せの4つの因子、対話の重視等、大いに共感できる内容だった。「あなたらしく」生きることは、ぜひ生徒に伝えたい内容だが、一人ひとりが「あなたらしく」あることはまだ難しい世の中なのではないかと感じる。また、「あなたらしく」を求めることは、理想の自分ばかりを追いつめる自分探しに陥る可能性もある。そこで重要なのが、対話だ。自分で考えた「あなたらしさ」ではなく、他者のフィルターを通した「あなたらしさ」に気づくことができるだろう。これからの社会を生きていく生徒には、Well-beingの視点が重要であり、その視点から学校教育を見直す必要があると考える。 千葉県立銚子商業高校 田中三郎

自分事にするワークシートの工夫に感服

4月号の「改良！ 指導ツール ピフォーアフター」で

は、「自分事にしよう」の視点が大変参考になった。これまで、進路学習では、勤務校の生徒の実態に応じてアレンジしたワークシートに取り組みせ、クラスで発表・共有していたが、どうしても生徒に書かせることが中心になりがちだった。その点を改善できそうだ。

栃木県立真岡工業高校 半田高史

高校生がSDGsに取り組む意義が分かった

探究学習にSDGsを取り入れている高校が増えていく。しかし、目標達成に向けては、国や自治体、企業でさえも、かなりの時間と労力、努力、協力が必要とされる。それなのに、なぜ、高校生が取り組むべき課題なのかを説明するのは難しいと感じていた。その疑問に答えてくれたのが、4月号の新連載「SDGsの視点で見る大学の学び」だった。SDGsの背景や特徴、その意義が端的に説明されており、すぐに学校で活用できる内容だった。

富山県 匿名希望

若手教師の意見を取り上げる新コーナーに期待

6月号から始まる「若手教師・教育創造 MTG」に、大いに期待している。これまでの教育のあり方では、時代の流れに乗り遅れてしまうと感じていたが、若手教師の意見を大々的に取り上げることは、教育改革への第一歩になるだろう。若手教師からの「新しい風」は、これからの学校教育に生かされていくべきだと信じている。

島根県 匿名希望

OFF SHOT



新型コロナ禍は、私の日常にも変化をもたらしました。東京にあるオフィスへの通勤電車では、3月から徐々に利用客が減り、オフィスの最寄り駅にはサーモグラフィーが登場（写真）。試しに測てみると、虹色の怪しい人物が映っていました。4月からは完全在宅勤務となり、通勤がない代わりに運動不足に陥り、少々肥満気味です。オンライン会議が日常になり、取材もオンラインが基本になりました。先生方からオンライン授業の導入状況や苦勞をお聞きし、大変な現状を認識しました。5月末に緊急事態宣言が解除となって改めて先のことを考えると、これが教育スタイルの変化の節目になったと振り返る日がいずれ来るのだと理解しました。だからこそ、今、最新の情報をお届けしなくてはと、改めて身が引き締まる思いです。（広瀬）



『VIEW21』高校版が
電子ブックに
なりました！

『VIEW21』高校版は2020年4月号から電子ブックでご覧いただけるようになりました。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。
HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

VIEW21 最新号 検索

VIEW21 高校版 2020 8 月号

次号は8月20日発行（予定）
『VIEW21』高校版は年6回の発行です

北海道札幌北陵高校

徳橋孝之先生

とくはし・たかゆき

◎教職歴 18 年。同校に赴任して1年目。主幹教諭。北海道高等学校教育研究会英語部会運営委員、英語教育推進リーダー研修講師を務めるなど、北海道の中堅教師の指導力向上において、重要な役割を果たしている。

誰もができる仕組みを
作ることが仕事である。
徳橋孝之

前

任校では、5年～10年先を見据えた学校のあり方を検討し、「学び直し」を軸にした教育活動全体の再構築を全校体制で取り組みました。「総合的な学習の時間」の内容の整理と学校行事の精選を進めながら、学び直しを目的とした学校設定科目を教育課程に位置づけ、教科や分掌を超えたチーム・ティーチングで国語・数学・英語の授業を実施することになり、私は「学び直し」のプロジェクトリーダーを務めることになりました。

最初のうちは「その教科を専門とする教師が担当した方がよいのではないか」といった意見も多く聞こえてきましたが、私は「2年目になれば先生方も慣れ、納得されるだろう」と考えていました。しかし、翌年度になってもそうした声は収まりませんでした。次第に私は、「簡単な内容なのに、どうして教えられないと言うのだろう」と、苛立ちを覚えるようになりました。そうした折、管理職との会議中に、校長からかけられた言葉が「**誰もができる仕組みを作ることが仕事**ですよ。徳橋先生がこの学校を去った後のことも考えてくださいね」でした。

「学び直し」は中長期的な取り組みだと捉えていたから、校内の多くの教師を巻き込む必要性は感じていました。しかし、現実にはそれができていないこと、共感を得ないまま続けてもうまくいかなくすることに、校長の言葉で気づかされたのです。

プロジェクトチームは、先生方が各々の専門で頑張っていることに尊敬の念を持ち、その上でそれぞれの異論や疑問に真摯に向き合い始めました。併せ

て、チーム・ティーチングでの役割分担なども、より具体的に示し、先生方の不安の払拭に努めました。

先

生方に助言する立場になってからは、「働きやすい環境」はどうすればできるのかを、それまで以上に考えるようになりました。私たち教師は、日々愚直に、そして懸命に生徒に向き合っています。だからこそ、教師同士でお互いの頑張っている部分を認め合うことが大切なのです。そうして、学校という場で私たち教師も人生の喜びに満たされた時、教育活動の改善にも全員で取り組めるようになるはずだと、私は経験を通して確信を持ちました。

一方で、全員の力で成し遂げることにこだわりすぎると、改革のスピード感が失われてしまうこともあるでしょう。誰もができる仕組みづくりを目指しながら、時には新しい取り組みなどは先生方の個々の力に頼ることで、最大限の効果を生み出していくべき場面もあるはずです。できる人ができる時にまずは率先して耕しながら、少しずつ周囲を巻き込んでいくことが大切だと思います。

校

長を始めとして管理職は多くの場合、2、3年で異動しますし、マネジメントに必要なメンバーの特性把握にはどうしても時間がかかります。現実には、ミドルリーダーと呼ばれる世代の教師が、校内の教師の強みや個性を把握して、この分野はこの先生を中心に……などと判断して進めていく方が、スピードも効率もアップします。「GOを出すのは校長。動かすのは自分」。そう強く自覚することも、私たちミドルリーダー世代には必要だと思っています。

ベネッセ教育総合研究所ウェブサイトにも**新コーナーリリース!**

VIEW21 express

変化が激しく、将来の予測が困難な社会において必要な教育とは、そしてそれを実現するための手立てとは——これからの時代、教育にかかわる人の多くが考え続ける問いだと思います。その答えは1つではなく、それ自体変化していくものだからこそ、タイムリーな情報提供が必要であると考えました。本コーナーでは、最新の教育現場の状況や取り組み、今求められている情報、現場の教師や識者のオピニオンなどを、『express(=速達)』でお伝えします。



> ベネッセ教育総合研究所 > VIEW21 express



VIEW21 express

検索

掲載コンテンツ(予定)

- ◎ シリーズ・みんなで語り合い、考える「これからの学校」
- ◎ 「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校指導への影響に関するアンケート」結果レポート
- ◎ 「これからの探究学習～臨時休業を経験して再認識したその重要性～(仮)」(*)

*『VIEW21 express』に掲載する本記事を1冊にまとめ、『VIEW21』高校版の臨時増刊号として、『VIEW21』高校版 8月号と同送する予定です。



VIEW21

ビュー21 高校版 Volume2 2020年6月号
2020年6月19日発行/通巻第382号 発行人 山河健二 編集人 春名啓紀 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
VIEW21編集部 〒163-0415 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング
©Benesse Corporation 2020

お客様
サービスセンター

【フリーダイヤル】0120-350455

受付時間 月～金 8:00～18:00/土 8:00～17:00 (祝日、年末・年始を除く)
株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17

OK VOL2

Benesse